KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立スピードスプレーヤ
SSV653F
SSV653F/1

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2003/04

はじめに

●共立スピードスプレーヤをお買い上げいただき、ありがとうございます。
●このスプレーヤは果樹園で散布作業を行なうための高性能防除機です。正しく使用することにより充分効果的な散布が保たれるよう設計されています。
●取扱説明書に書かれている目的以外には使用しないでください。
●この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
●スプレーヤに指定以外の部品を装着したり、部品を取外したりすると、重大な事故につながり、違法改造になることがあります。販売店、あるいは地区共立エコー株式会社にご相談ください。
●このスプレーヤに関してご不明な点、ご質問がある場合は、車体銘板に書かれている形式・車体番号を確認し、販売店にお問い合わせください。
●本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげ、図示されている内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
●取扱説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
●単位はＳＩ単位を使用しています。
（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

目次

はじめに 2
警告表示ラベルの意味 3
安全のために 5
正しい作業のために 6
運転 8
各部の名称 １６
作業を始める前に ２５
機械の運転 ２９
散布作業 ３２
作業が終わったら ３８
点検・整備 ４０
故障対策 ４８
仕様 ５１

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警告

●正しい操作のための警告・注意を注意深く読んで理解してください。
●正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読んでください。

重要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

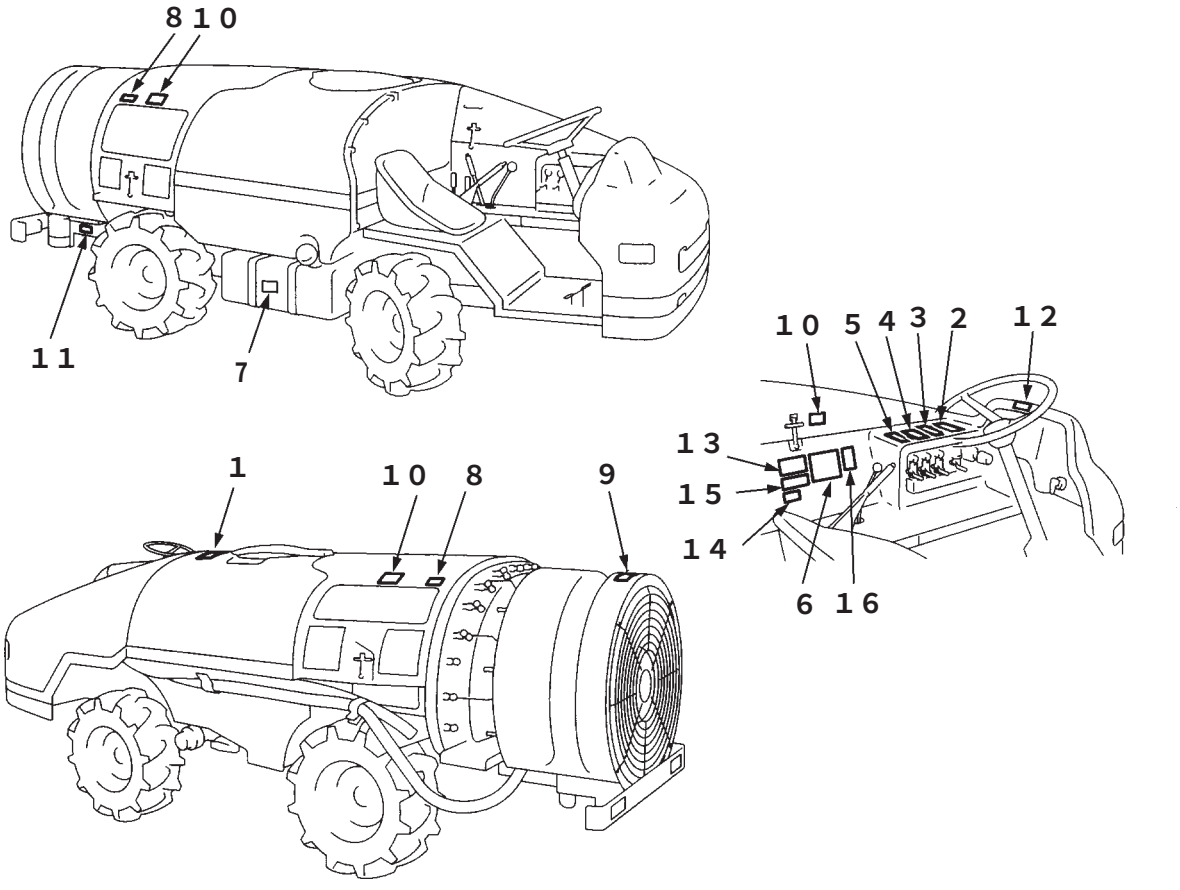
⚠ 注　意

- 取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- 取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- 取扱説明書で解説している機械を、貸与する場合、借りて作業をする人に、取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、取扱説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示ラベルの意味

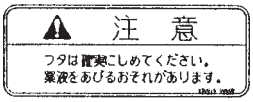
●取扱説明書で解説されている機械には、次ページの表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に「警告表示ラベルと解説」で確認し、ラベルの意味を理解してください。

●万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店より新しくラベル（次ページの警告表示ラベル一覧のもの）を購入し、下図の指示番号位置に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。



警告表示ラベルと解説

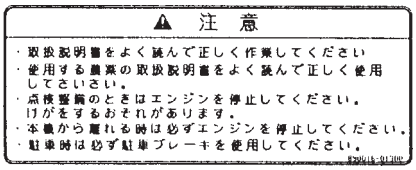
1



・薬液タンクのフタを締めること。

890016-00600

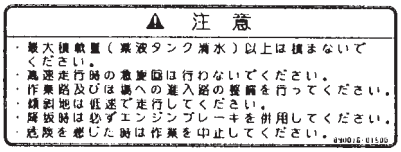
2



・取扱説明書を読み正しい操作をすること。

890016-01300

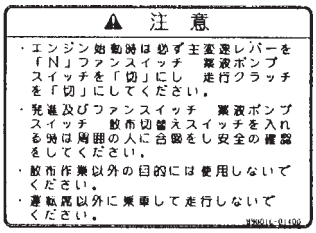
3



・注意して走行すること。

890016-01500

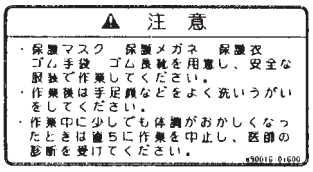
4



・各装置の取扱いに注意すること。

890016-01400

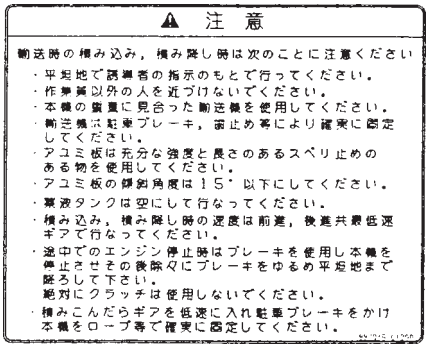
5



・正しい服装で作業すること。

890016-01600

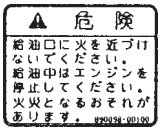
6



・輸送時の積み降ろしに注意すること。

890016-01200

7



・給油中は火気厳禁、エンジンを停止すること。

890098-00100

8



・運転中ノズルに近づかないこと。

890016-01800

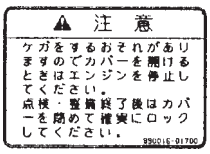
9



・運転中、送風機に近づかないこと。

890084-00700

10



・カバーを開ける時はエンジンを停止し、閉める時はロックすること。

890016-01700

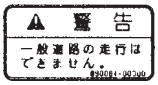
11



・排気管にさわらないこと。

890016-01900

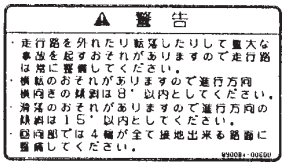
12



・一般道路を走行しないこと。

890084-00300

13



・走行路の整備､確認を行なうこと。

890084-00600

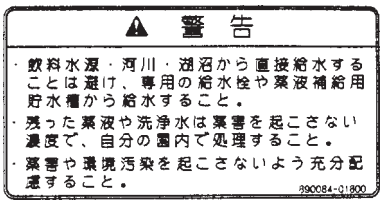
14



・室内で運転しないこと。

890084-00500

15



・吸排水時は、注意すること。

890084-01800

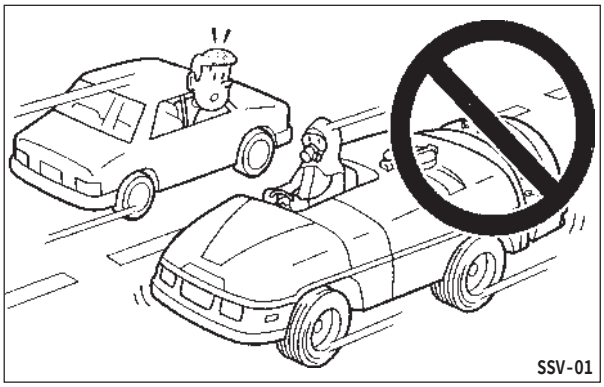
16



・作業時以外ブレーキペダルを連結すること。

890084-02200

安全のために



公道走行禁止

⚠ 警告

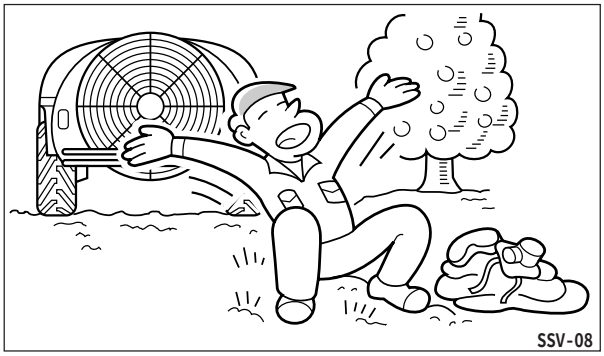
一般道路の走行はできません。

●本機は小型特殊自動車の認定を受けていませんので一般道路（公道）での走行はできません。



からだの状態

● 病気のときや体調が悪いとき､妊娠中の場合､また､アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。



● スプレーヤの運転、操作は体力を消耗します。長時間の作業を避け、適当に休みをとってください。

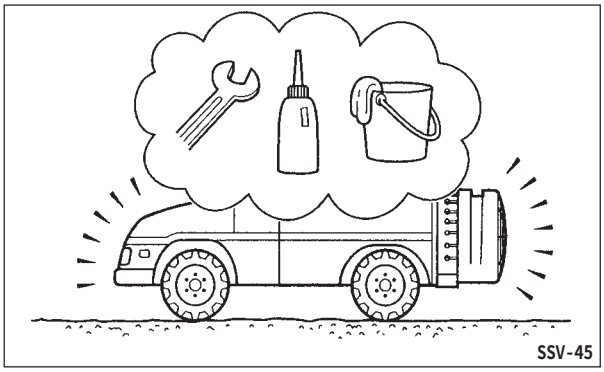
● 薬液の散布はたいへん体力を消耗します｡長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。

● 作業をしながらの喫煙、飲食は絶対にしないでください｡タバコや飲食物に付着した農薬がからだの中に入ることがあります。



その他

● 燃料および農薬がはいった容器やスプレー缶などは積まないでください。



⚠ 注意

点検・整備は平坦な場所で、エンジンを停止して駐車ブレーキを掛けて行なってください。

車両の寿命や維持費は取扱い方（特に運転操作のしかた）により異なってきます。

⚠ 危険

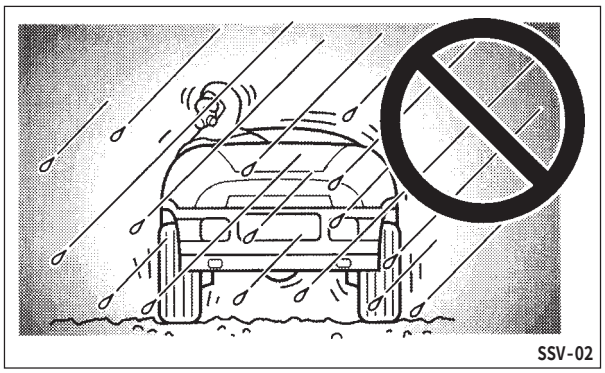
急発進、高速急旋回は、危険ですので絶対に行なわないでください。

正しい作業のために

作業を始める前に

⚠ 警告

スプレーヤを初めて使用する場合は、使用したことがある人の指導のもと、作業を行なってください。


SSV-02

⚠ 警告

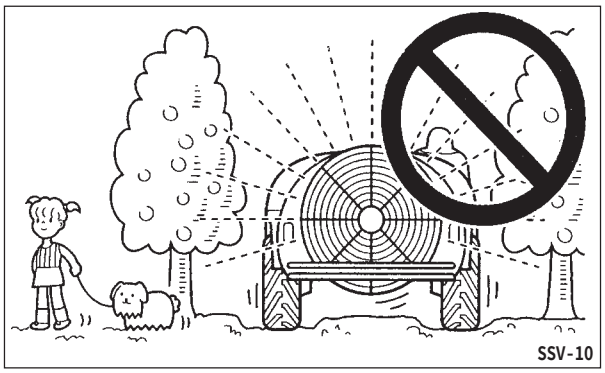
夜間や雨が降っているときは周りがよく見えません。散布作業を行なわないでください。

⚠ 警告

作業前に必ず以下のように散布作業の計画をたててください。

- **薬剤の種類、量を決める。**
- **走行路を点検する。**
- **走行速度を決める。**
- **作業手順を確認する。**

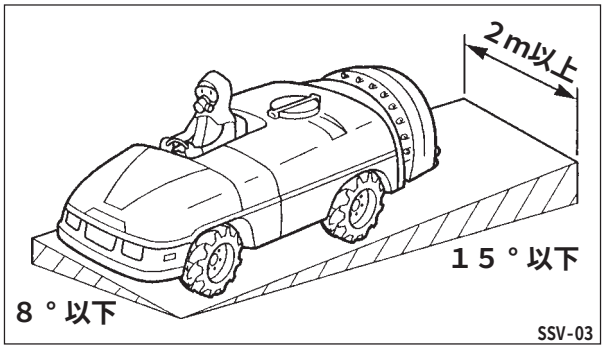
また、農協、防除共済組合などの職員から散布作業の注意事項について説明を受けてください。


SSV-10

●子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。

作業場所を点検する。

以下のことを実施してください。

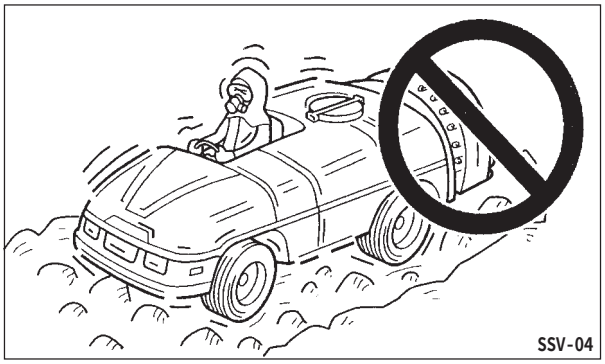


SSV-03

走行路の点検

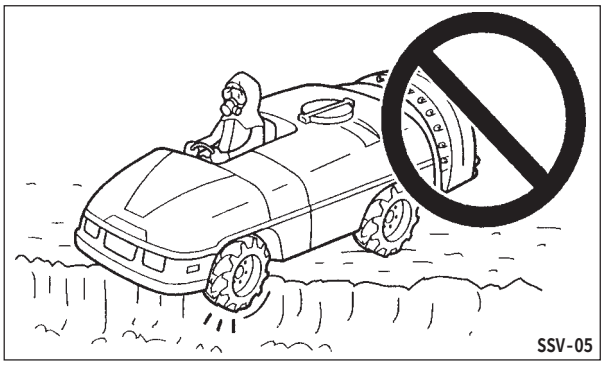
－ 地面の幅が２m以上である。

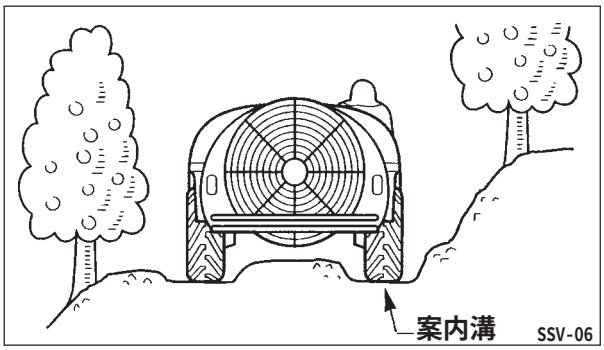
－ 地面の傾斜が適切である。横向きの傾斜が８°以下、進行方向の傾斜が１５°以下である。

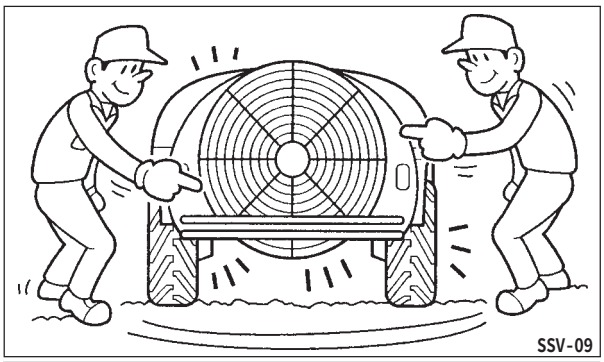

SSV-04

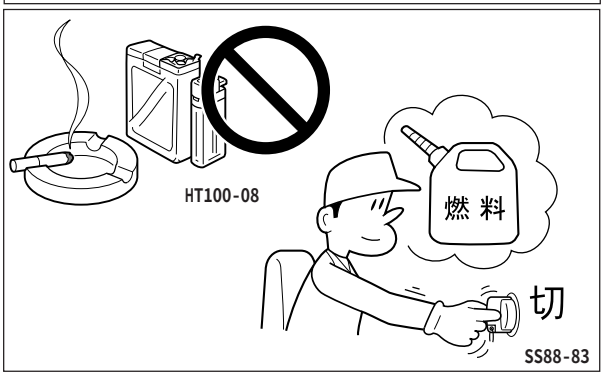
－ 走行路が平らである。

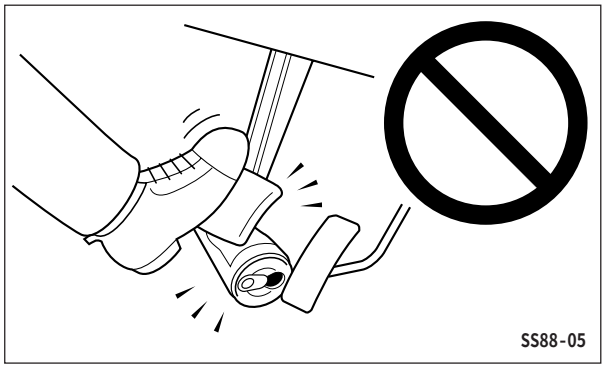
－ タイヤを損傷する恐れがあるので障害物は取除いてください。











⚠ 警告

車両は４輪全てが接地していないと転倒､滑落が発生し､大変危険です｡方向変換のとき､タイヤが浮いたり脱輪するような走行路は整備してください。

走行路の補修

- 壌土だけの道路は､雨上がりに崩れやすくなります。またスリップなども起きやすくなります。砂利などを敷いて補修してください。
- 路面が柔らかい所は草などを植え､水はけを良くしてください。
- 傾斜地では高い方の路面に溝を掘り、タイヤの案内溝を作ってください。走行が安定します。

作業前の点検をする

- 各部品がきちんと取付けられているか確認してください。
- 走行装置に異常がないか確認してください。

⚠ 警告

ブレーキ、クラッチ、ステアリングに異常がある場合､直ちに運転を中止して販売店あるいは地区共立エコー株式会社に整備を依頼してください。

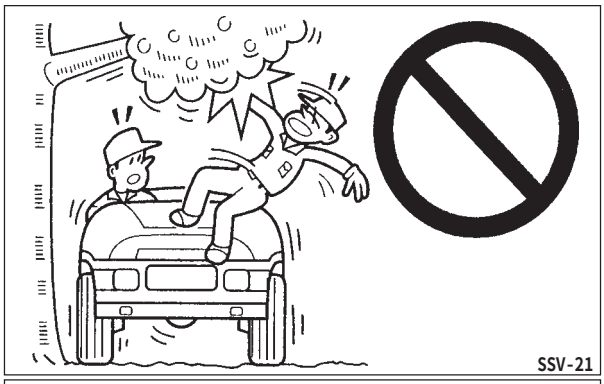
⚠ 危険

燃料の給油は周囲に火気がないことを確認し、エンジンを停止して行なってください。
燃料がこぼれた場合はすぐに拭き取ってください。
給油後は燃料タンクのふたが確実に締まっているか確認してください。

⚠ 警告

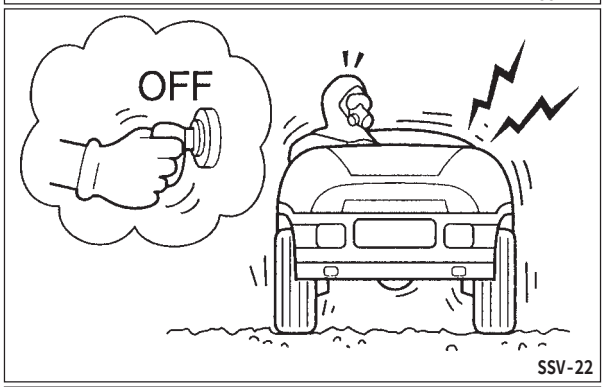
- 車両を発進するときは周りをよく確認してください｡車両のミラーには死角があります。車両の前後に人や障害物がないか直接自分の目で確かめてください。
- 運転席の足元付近には運転を妨げるような物を置かないでください。
  空き缶など、物を置くとブレーキペダルの下にはさまりブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなる場合があります。

運転


SSV-21

⚠ 危険

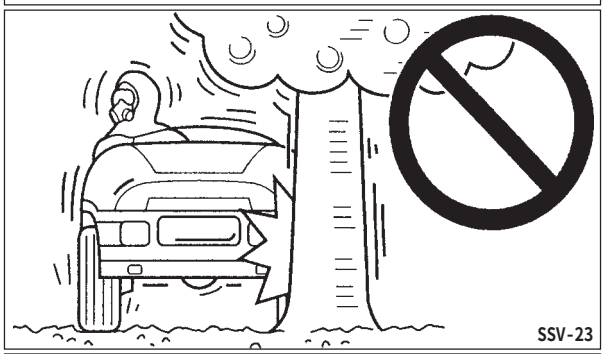
運転席以外の場所に乗って走行･作業をしないでください。



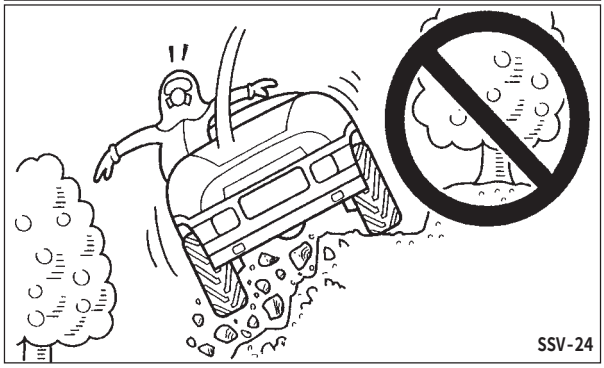
SSV-22

⚠ 警告

- **危険を感じた場合はすぐに運転を中止し、エンジンを停止してください。**
- **下り坂などでエンジンを停止したまま走行しないでください。**
- **エンジンが停止するとパワーステアリング装置が動かなくなりハンドルが重くなり衝突や転落などの事故になることがあります。**


SSV-23

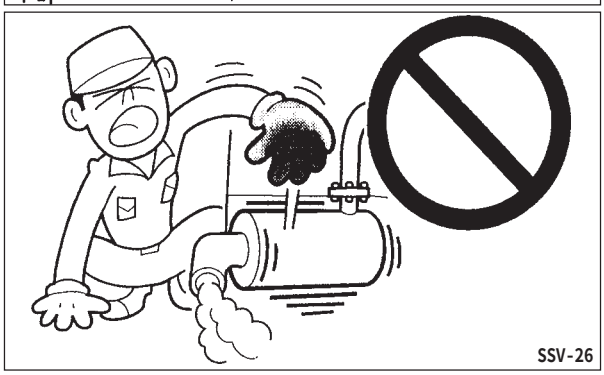
- **走行中はよそ見をしないでください。作業場所以外を見るときには、必ず車両を停止してください。**
- **後退するとき後方の安全確認ができない場合は車両から降りて安全確認してください。**

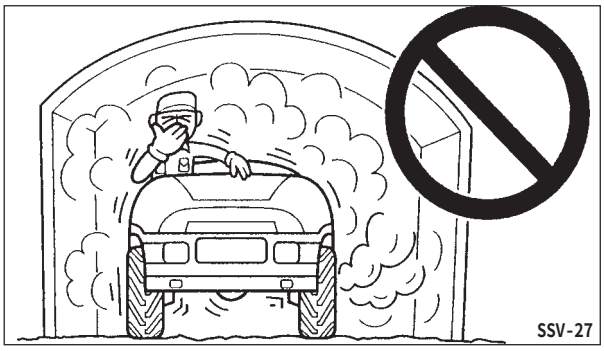

SSV-24

⚠ 危険

テラス式（等高線方式）の道路の路肩は崩れやすくなっています。充分気をつけて走行してください。

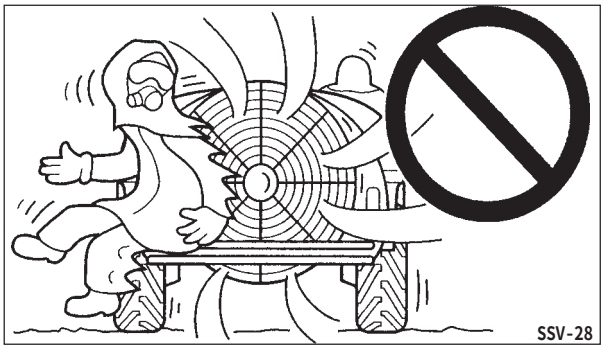
- **スピードスプレーヤはエンジン出力と減速比が普通の車両より大きくなっています。ブレーキペダルはしっかり踏み込んでください。**
- **排気管やマフラなどの加熱部は高温になりますのでさわらないでください。**


SSV-26



⚠ 警告

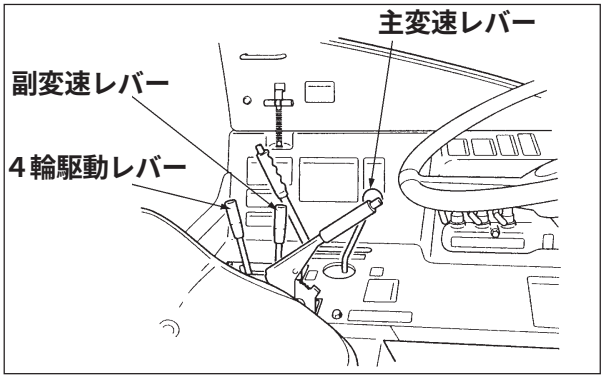
エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内ではできるだけ始動しないでください。車両の移動のためにやむを得ず始動するときは窓や戸を開けて換気を行ない、始動後は速やかに屋外に移動してください。屋内では暖機や長時間の運転はしないでください。



⚠ 警告

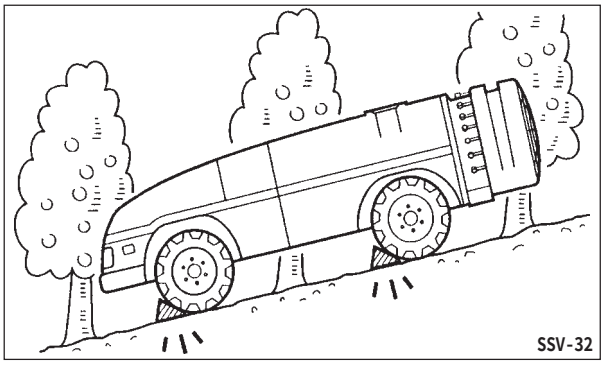
運転中は送風機に近づかないでください。衣服が吸い込まれることがあります。
送風機から草などを取除くときは必ずエンジンを停止し、ファンが確実に停止していることを確認してください。

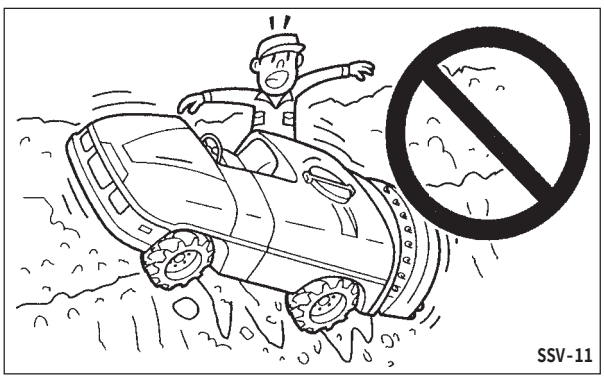
坂道を走行する



⚠ 警告

- 坂道では前もって４輪駆動レバーを「入」に、副変速レバーを「低速」にしてゆっくり走行してください。
- 坂の途中でクラッチペダルを踏んだり、変速レバーを操作しないでください。
- 同じ坂道でも、降りるときは登るときより加速がつきます。降りるときには速度を遅くしてください。
- 坂道には駐車しないでください。やむをえず駐車する場合は、タイヤに歯止めを掛けてください。





⚠ 危険

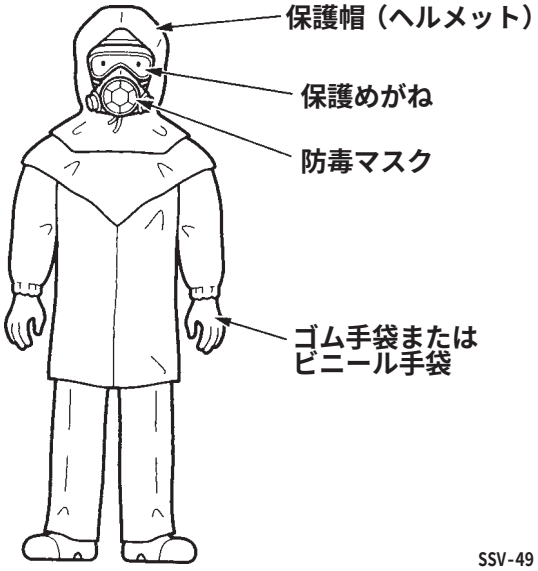
スプレーヤを不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。

⚠ 注意

農薬に関する法令および注意事項は、農薬の種類、使用する場所などにより異なります。そのため、この取扱説明書に農薬に関するすべての法令、注意事項を記載することはできません。お客さまが使用する農薬の使用方法、ラベル表示、関連する法令、注意事項をよく理解してから、散布作業を行なってください。

⚠ 警告

適切な服装、保護具を身に付けないと重大な事故を起こす可能性があります。安全に作業するために、かならず適切な服装、保護具を身に付けてください。



SSV-49

重要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因となります。

⚠ 警告

- 飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。
- 残った薬液や洗浄水は薬害を起こさない濃度で、自分の園内で処理してください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮してください。

薬液散布について

服装について

- 滑らない底が付いた靴を履いてください。つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
- 薬液を散布する場合、頭、あし、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。
- 薬液が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性のよい衣服を身に付けてください。

薬液散布の保護具について

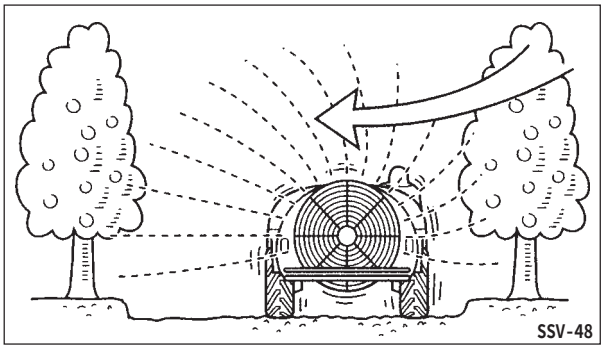
- 保護帽（ヘルメット）を着用してください。次のような効果があります。
  - 転倒したときに重大な事故を防ぐ。
  - 騒音から耳を保護する。
  - 農薬から身体を守る。
- 薬液を吸い込まないために、防毒マスクを正しく着用してください。
- 目を保護するため、保護めがねを付けてください。
- ゴム手袋またはビニール手袋を使用してください。
- 農薬にかぶれやすい人は、保護クリームを顔、首、手首などに塗ってください。
- 汗を拭いたり顔を洗うためにタオル、手ぬぐい、水などを、用意してください。

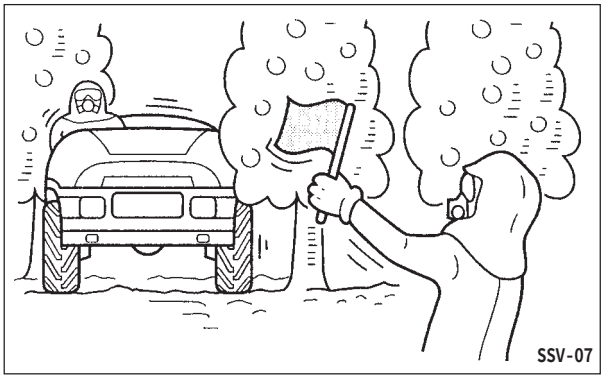
薬液散布前の注意

- 農薬のラベルには必要な注意事項が書かれています。いつも使用している農薬でもラベルの内容に変更がある場合があります。使用する前に必ず読み、その指示に従がってください。
- 薬剤を溶かすときは、防毒マスク、ゴム手袋、保護めがねなどの保護具を着用してください。
- 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。
- 専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。飲料水源・河川・湖沼からは直接給水しないでください。

⚠ 警告

風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛んでしまうことがあります。







⚠ 警告

散布作業中あるいは散布作業終了後に、からだに異常を感じたときは、すぐに医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

薬液散布中の注意

- **散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると薬液が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗します。**
- **薬液がからだにかかるのを避けるため、風上の方を向き風に向かって進みながら散布してください。**
- **風が横から吹く場合は、風上にスプレーヤを寄せるようにして走行してください。**
- **散布作業を二人以上で行なう場合、主任作業者とそれぞれの作業の専任者を決めてください。共同作業を行なう場合、あらかじめ合図を決めておいてください。**
- **視界が悪い場所では、誘導する人を決めてください。手旗などでスプレーヤ運転者に周りの状況を伝え、作業を行なってください。**

薬液散布後の注意

- **ハウス内で防除作業を行なったときは、薬液が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。**
- **薬液が残ってしまった場合は、川、下水道などに流さないでください。周囲に影響がでない場所に散布してください。散布用にうすめた農薬は分解が早いので、残さなでください。**
- **農薬の空き容器はきれいに洗い、適切な方法で処理してください。**
- **農薬、器具の後かたづけが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。**
- **薬液散布の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸入した場合、体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むとさらに酵素の働きが低下し疲労の回復が遅くなります。**



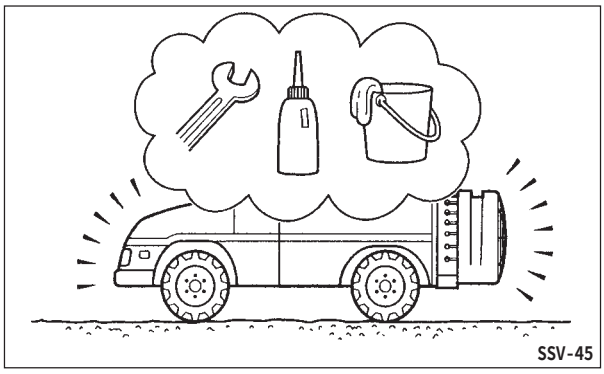
作業が終わったら

●作業が終わったらエンジンを停止して、取扱説明書に従がい清掃を行なってください。

点検・整備を行なう

⚠ 注意

点検・整備は平坦な場所で、エンジンを停止して駐車ブレーキを掛けて行なってください。



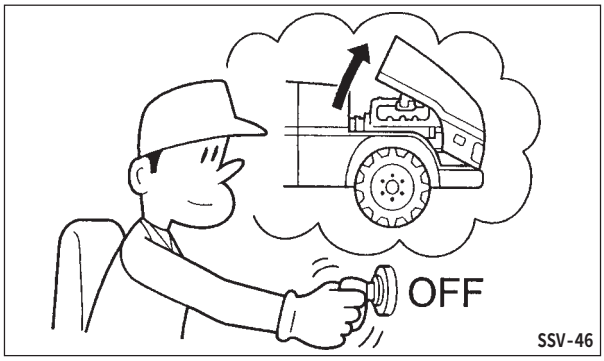
●修理、清掃などの作業は、障害物や火気のない安定した場所で行なってください。

●毎月、毎年の点検・整備を行なった日を記録してください。

●１年に１回以上は、お買い求めの販売店に定期点検を依頼してください。

●駐車するときは必ず駐車ブレーキを掛けてください。

●取扱説明書に従がって正しい時期に点検・整備を行なってください。



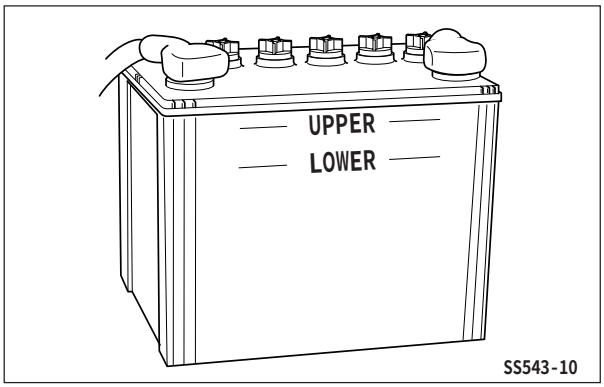
⚠ 注意

カバーを開けるときはエンジンを停止してください。また点検・整備が終わったらカバーを閉めて確実に固定してください。

●燃料こし器エレメントは軽油で洗浄してください。ガソリンで洗浄しないでください。

⚠ 危険

エンジン停止直後に、ラジエータキャップや冷却水ドレン栓を外すと、蒸気や熱湯が吹き出し大変危険です。ラジエータが冷えてから外してください。



⚠ 危険

バッテリ取扱いの注意

- バッテリの取扱いはバッテリ液、火気などに充分注意してください。
- バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をすると、バッテリの破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリのコードは押え金具などの金属部分に近づけないようにして確実に固定してください。接触（ショート）すると引火爆発や火災の原因となる恐れがあります。
  プラスターミナルにカバーがある場合は、きちんとカバーをしてください。
- バッテリの上またはバッテリカバーの上には、物を置かないでください。

充電を行なう

⚠ 警告

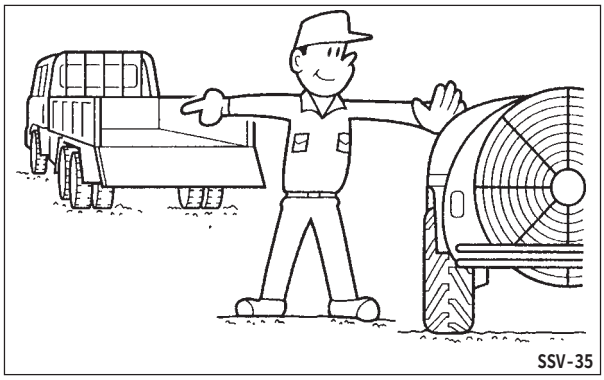
- 充電を行なうときは、換気を行ないタバコなどの火気を近づけないでください。
- 車両にバッテリを載せたまま充電するときは、エンジンを停止してください。前照灯など電源を必要とするスイッチを切り、マイナス側のターミナルを外してください。
- 充電クリップの接続、取外しの前に充電器のスイッチを切ってください。
- 充電中にバッテリテスタを使用しないでください。
- バッテリ液に触れるとやけどをしたり、また、目に入ると失明する恐れがあります。
  バッテリ液を扱うときは手袋、保護めがねをしてください。
  万が一触れたり、目に入った場合はすぐに水で洗い流し医者に相談してください。

保管する

- 保管する前に必ず薬液タンク、配管、ポンプの水を抜いてください。水が残ると寒冷時に凍結し薬液タンクなどの配管部品を破損することがあります。
- 燃料タンクはドレンから燃料を排出してカラにしてください。
- スタータスイッチのキーを必ず抜いてください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。
- 以下のような場所に保管してください。
  - 熱、直射日光にさらされない。
  - 湿気がない。
  - 平坦な場所。
  - 子供がさわることができない。
  - 火気がない。

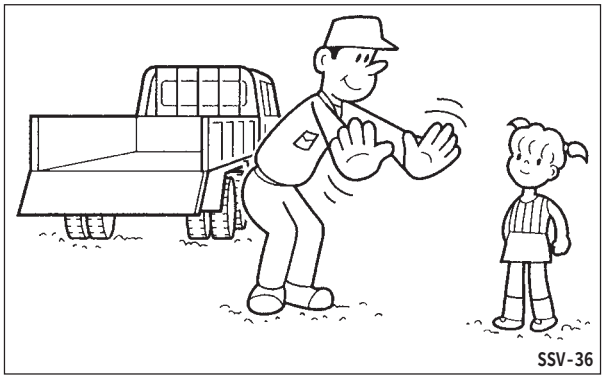
運搬

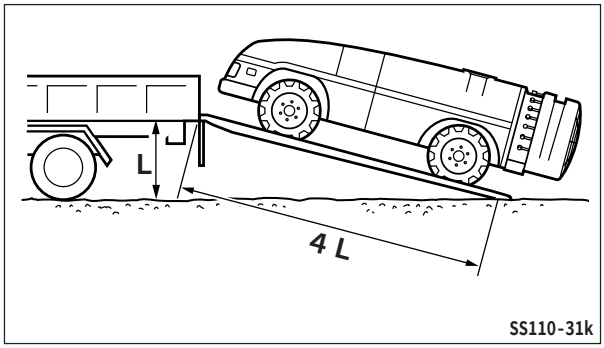
輸送時、スピードスプレーヤをトラックに積み降ろしするときは以下のことに注意してください。


SSV-35

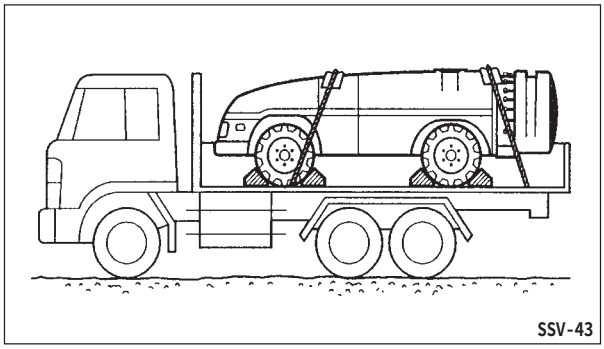
⚠ 警告

- 絶対に急発進しないでください。
- アユミ板上での変速、進路変更、クラッチ操作はしないでください。
- 誘導者は機体姿勢の急変に注意し、的確に運転者に指示を与えてください。
- 片ブレーキ付の機体では必ずブレーキ連結板でブレーキペダルを連結してください。


SSV-36



SS110-31k

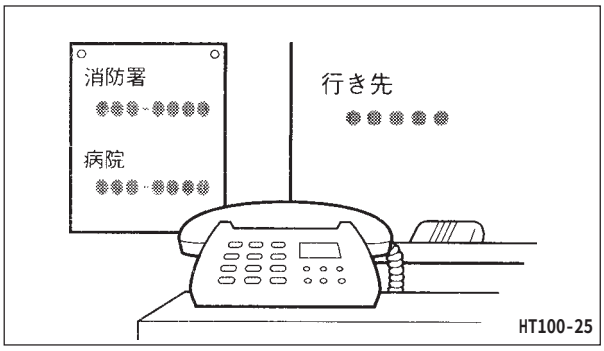

SSV-43

⚠ 注意

- 最大積載量、荷台寸法を確認し、過積載、オーバーハングにならないトラックを使用してください。
- 平坦地で、トラックのエンジンは停止し、駐車ブレーキを必ず掛けてください。
- 補助の誘導者立ち会いのもとで行なってください。
- 誘導者は機体や、アユミ板の状態がよく見え、運転者に的確な指示ができる位置に立ってください。機体の進行方向の直前、直後には立たないでください。

- 作業に関係のない人を近づけないでください。
- アユミ板は充分な強度（１枚当り耐荷重７５０ｋｇ以上）でスベリ止めが付き、幅３０ｃｍ以上のものを使用してください。
- アユミ板の長さは地上からトラック荷台床板までの４倍以上のものを使用してください。
- 薬液タンクをカラにしてください。
- 積むときは主変速を「１速」、副変速「低速」で、降ろすときは主変速「Ｒ」、副変速「低速」で行なってください。
- 作業途中でエンジンが停止した場合、ブレーキペダルを強く踏み、その後すこしずつブレーキをゆるめ平坦地まで降ろしてください。
- 積み込んだ後、エンジンを停止し主変速を「１速」または「Ｒ」に、副変速を「低速」にして、駐車ブレーキを掛けてください。また、歯止めをタイヤの下に置き、ロープでトラック荷台に固定してください。

万一の事故に備えて

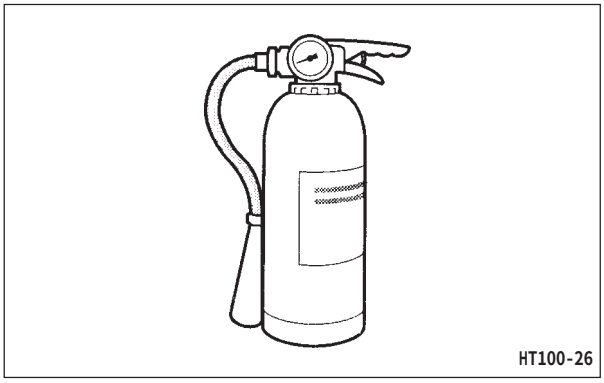


●作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

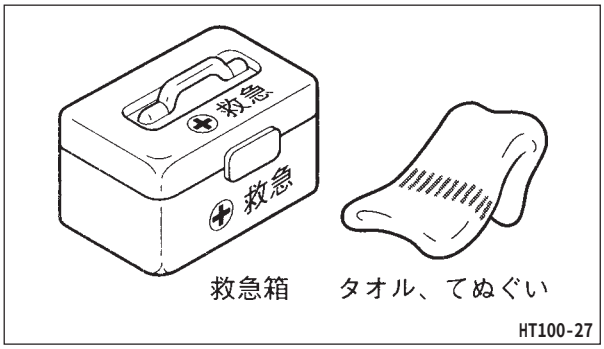
・作業現場では、呼子（笛）を携帯してください。



●発火に対する備え

> **⚠ 警告**
>
> **作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械から離れ、まず、自分の身体の安全を確保してください。**

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、消火器で消火してください。

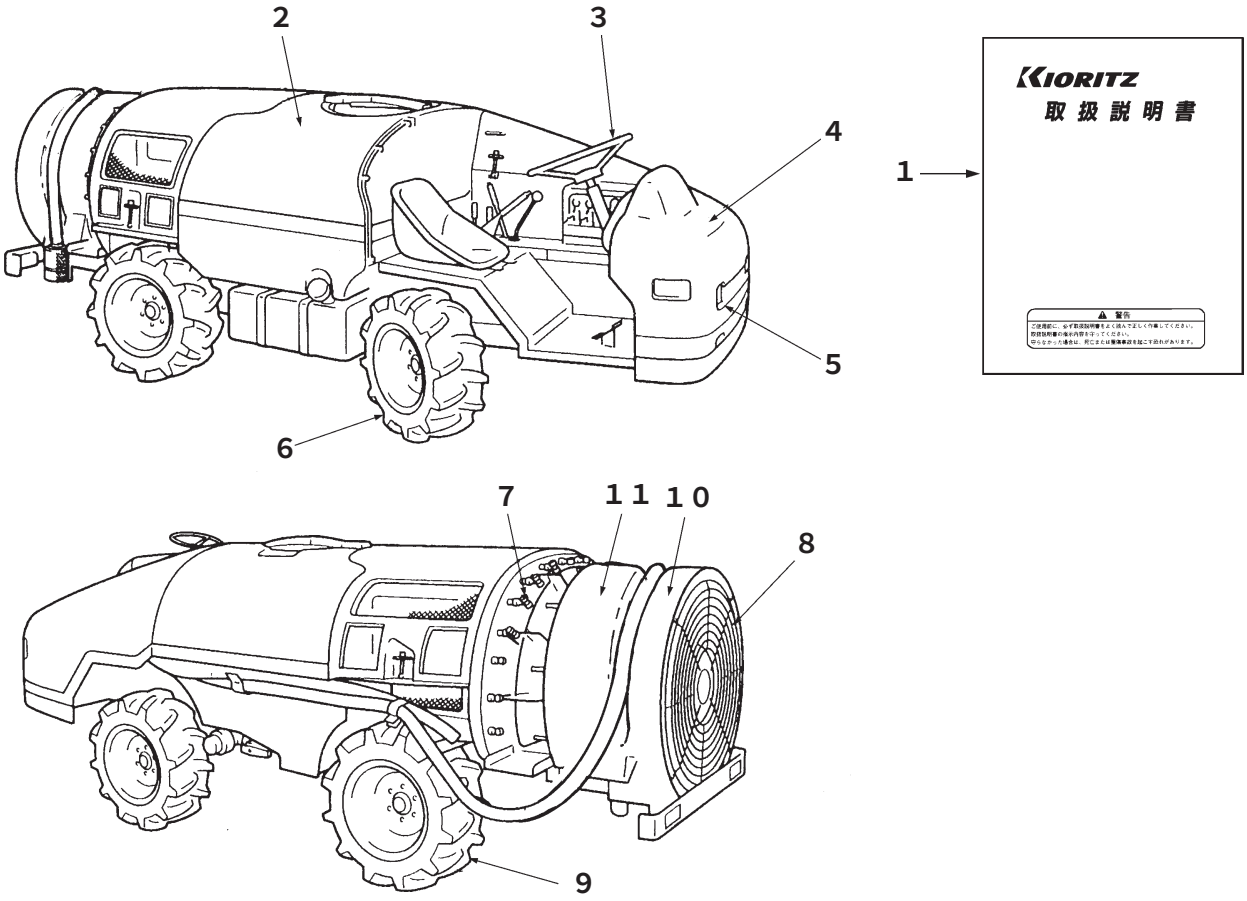


● ケガへの備え

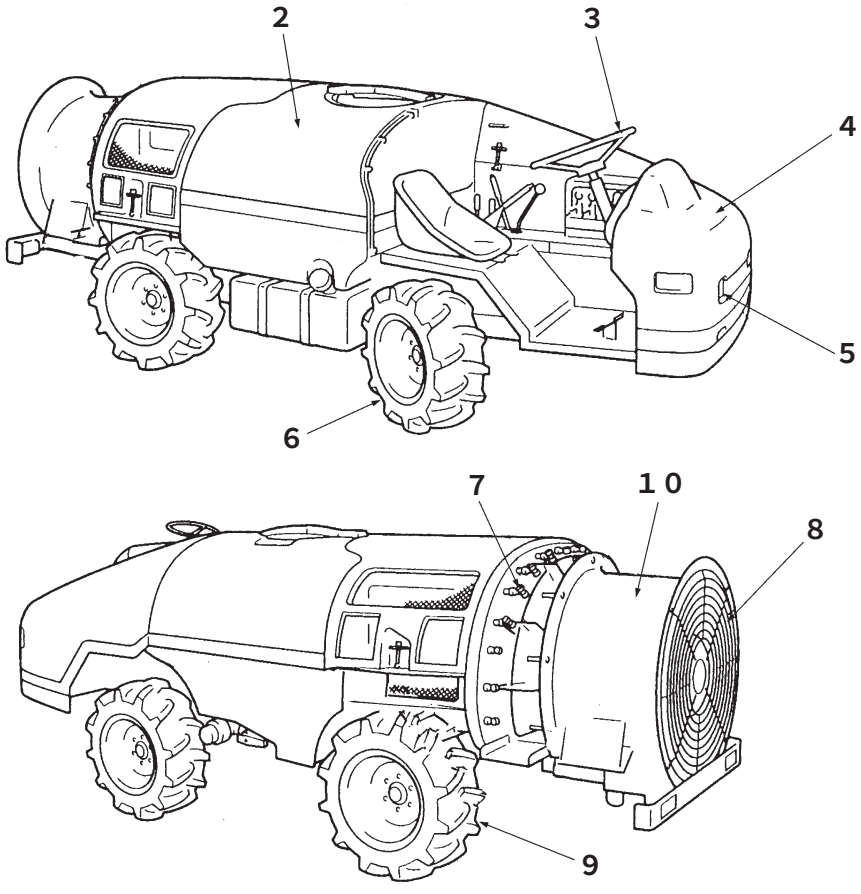
・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

各部の名称

ＳＳＶ６５３Ｆ



ＳＳＶ６５３Ｆ／１



各部の名称とその機能

１．取扱説明書 ――― 機械を使用する前に必ず読んでください。

２．薬液タンク ――― 水をためます。

３．ステアリングホイール――― タイヤを動かし車体を左右に動かします。

４．ボンネット ――― 車体の前方を覆います。

５．前照灯 ――― 夜間前方を照らします。

６．前タイヤ ――― タイヤが回転し車体を動かします。

７．ノズル ――― コックを開くと圧力水が噴射されます。

８．吸込カバー ――― 送風機の吸込み口のガードをします。

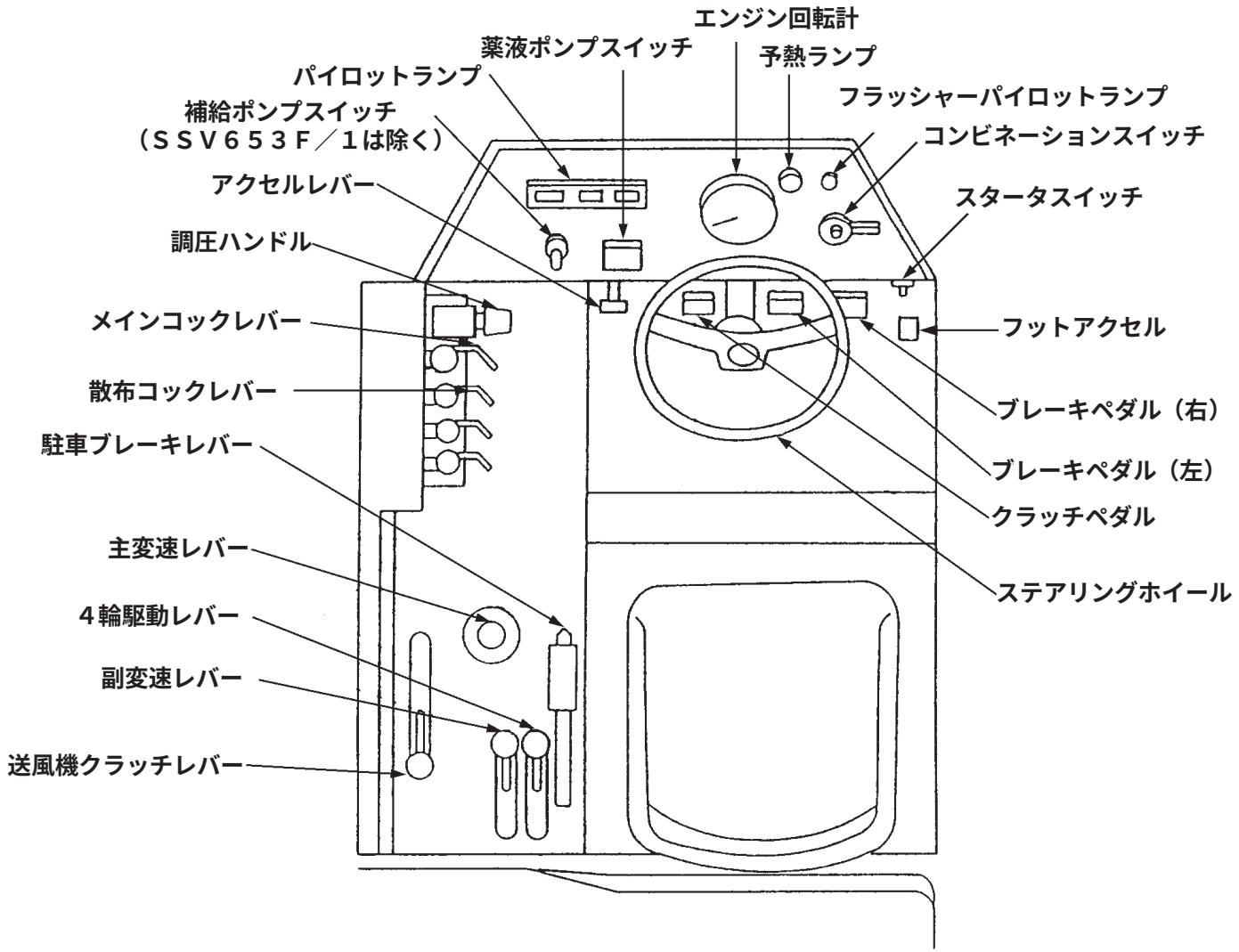
９．後タイヤ ――― タイヤが回転し車体を動かします。

１０．ファンケース ――― ファンからの風を送り出します。

１１．ファンケースカバー ――― ファンケースの周りのカバーです。

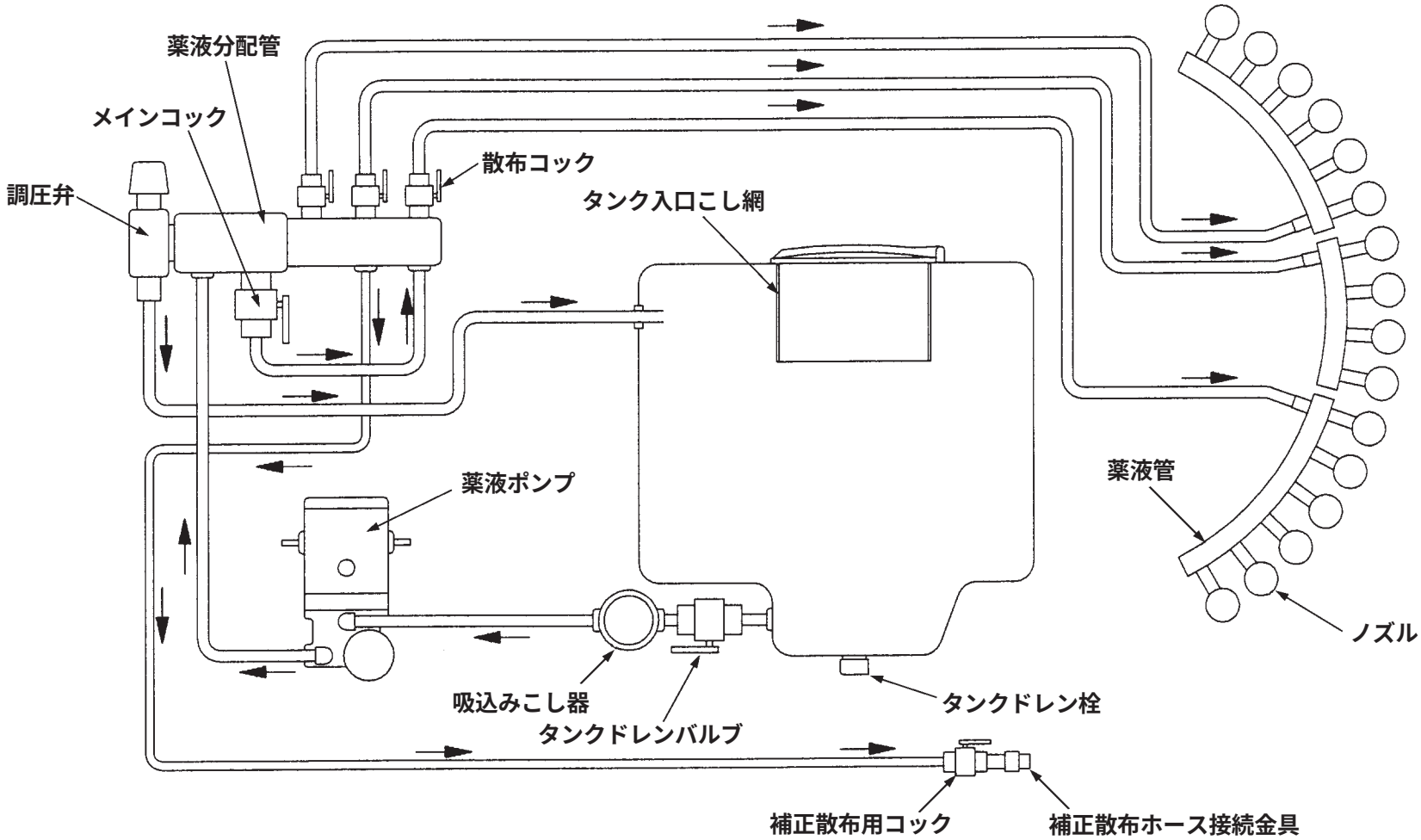
運転装置図

ＳＳＶ６５３Ｆ、ＳＳＶ６５３Ｆ／１



薬液配管図

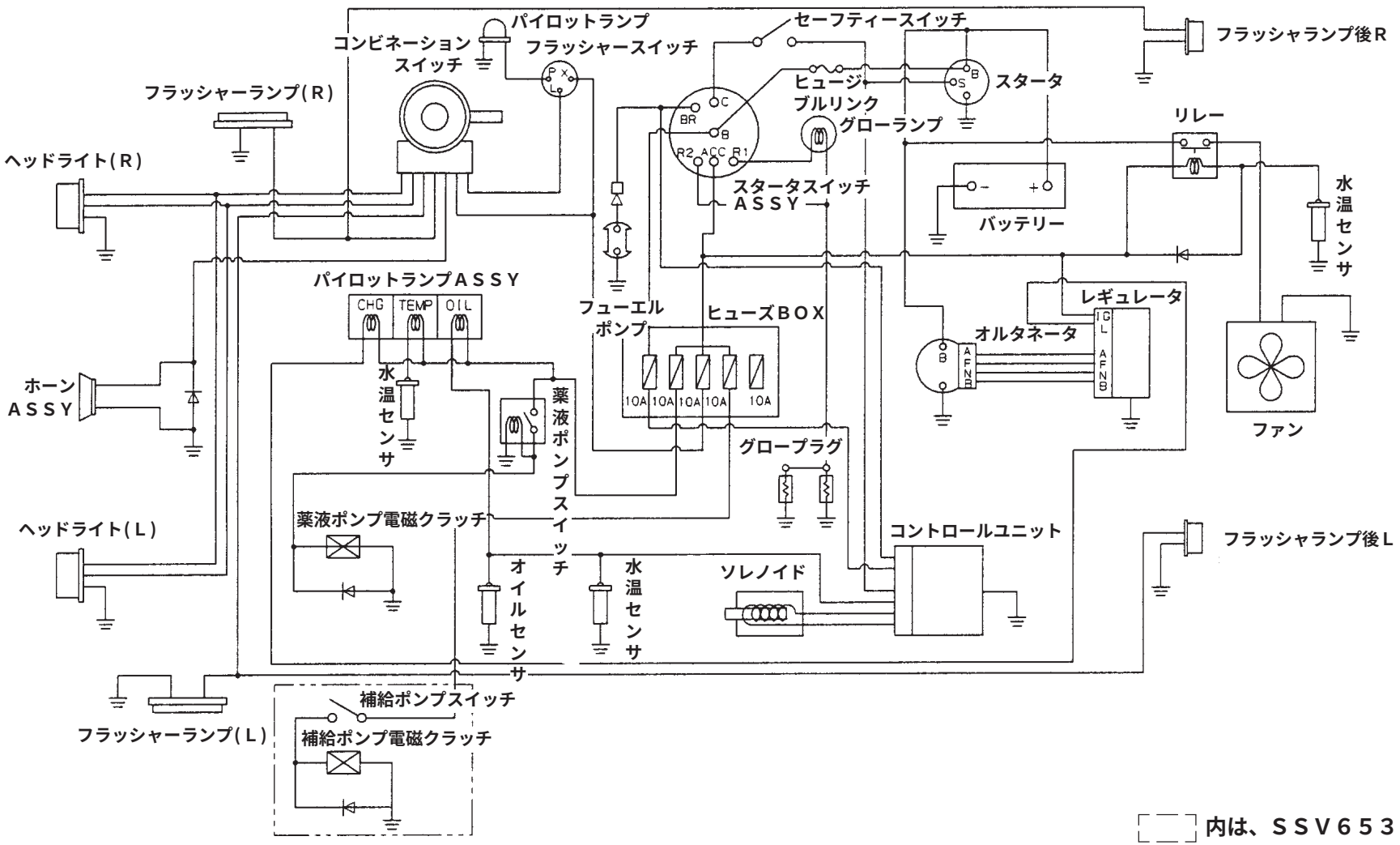
ＳＳＶ６５３Ｆ、ＳＳＶ６５３Ｆ／１



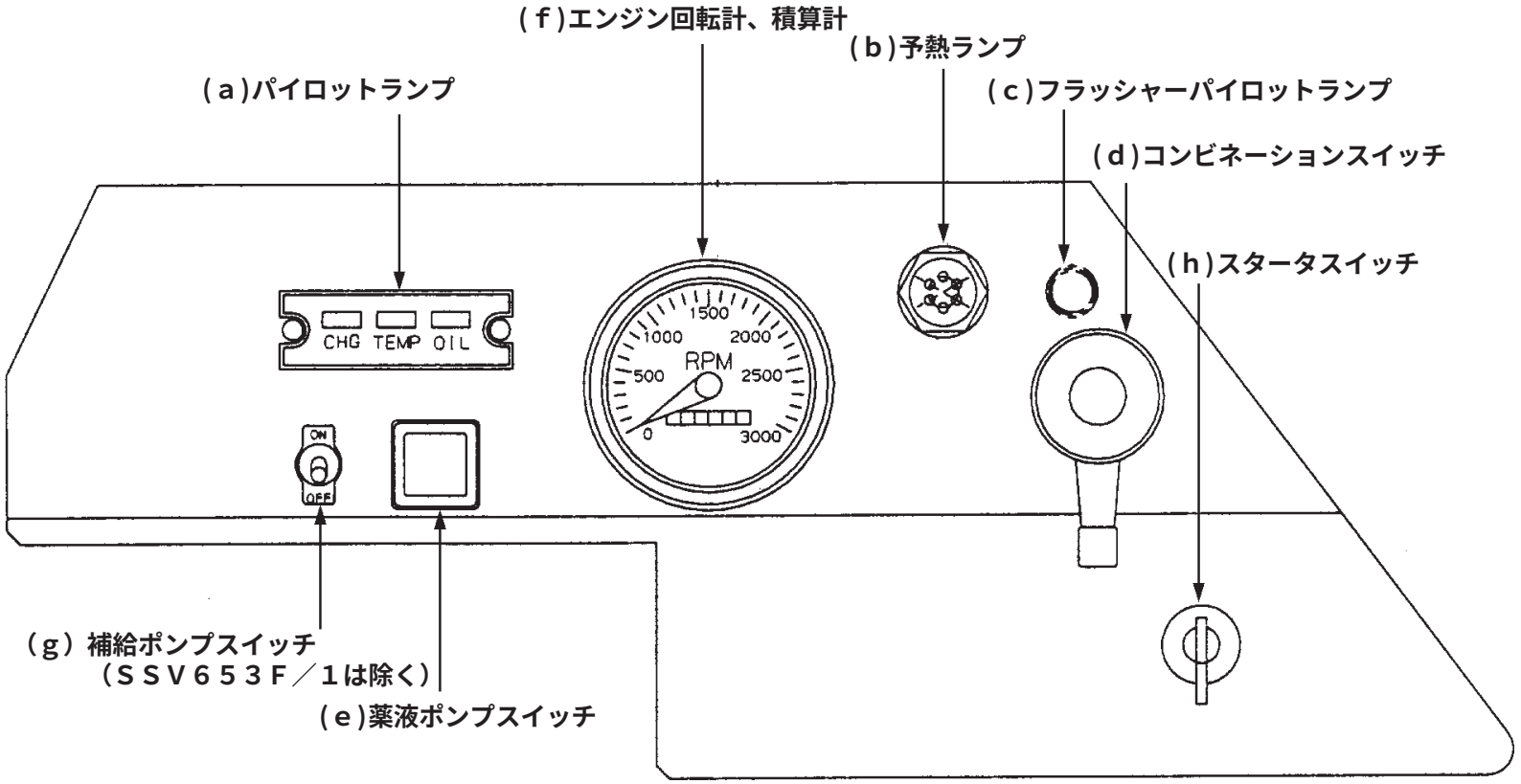
配管図の中の矢印は水又は薬液の流れる方向を表わしています。

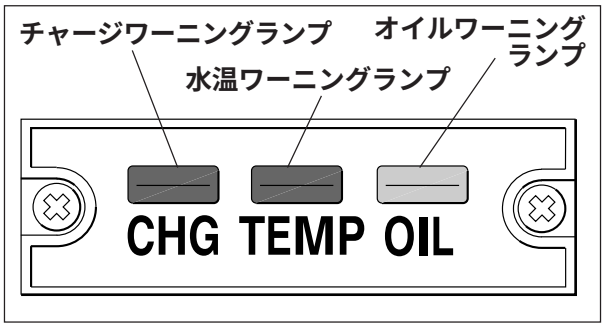
配　線　図

ＳＳＶ６５３Ｆ、ＳＳＶ６５３Ｆ／１



運転パネルの説明


(ｆ)エンジン回転計、積算計
(ｂ)予熱ランプ
(ａ)パイロットランプ
(ｃ)フラッシャーパイロットランプ
(ｄ)コンビネーションスイッチ
(ｈ)スタータスイッチ
CHG TEMP OIL
RPM
500
1000
1500
2000
2500
3000
0
ON
OFF
（ｇ）補給ポンプスイッチ
（ＳＳＶ６５３Ｆ／１は除く）
(ｅ)薬液ポンプスイッチ



（a）パイロットランプ

● ＣＨＧ（チャージワーニングランプ）
このランプは運転中バッテリに充電している状態では消えています。

● ＴＥＭＰ（水温ワーニングランプ）
このランプはエンジンの冷却水の温度を示します。このランプが運転中点灯したときは直ちにエンジンを停止し、点検してください。

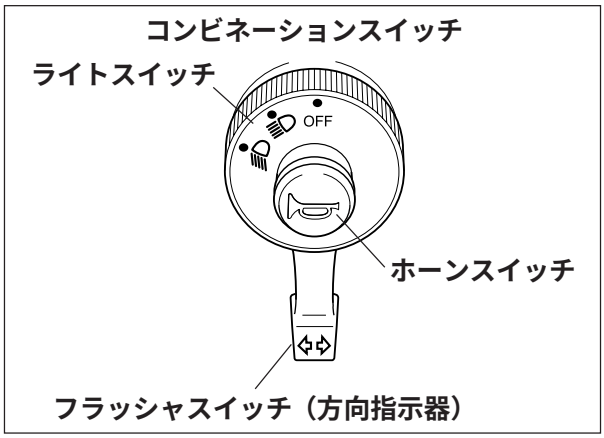
● ＯＩＬ（オイルワーニングランプ）
このランプはスタータスイッチを「入」にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。
このランプが運転中に点灯したときは直ちにエンジンを停止し、点検してください。

（b）予熱ランプ

スタータスイッチを「予熱」にすると、予熱ランプの中のニクロム線が赤熱し､グロープラグの赤熱状態を示します。１０秒前後赤熱してください。
(寒冷時には、グロープラグを充分に赤熱してから始動してください。)

（c）フラッシャパイロットランプ

方向指示のフラッシャランプが点滅していることを示します。



（d）コンビネーションスイッチ

フラッシャスイッチ（方向指示器）

スイッチを右、または左に操作すると、操作した方向（車両の右または左側）の各フラッシャランプが点滅します。

ホーンスイッチ

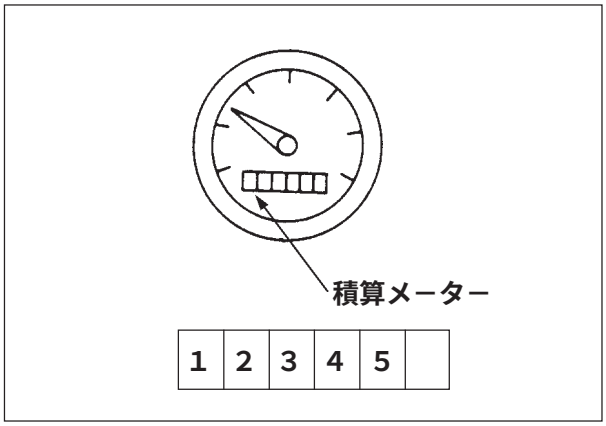
スタータスイッチを「入」にしてホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。

ライトスイッチ

スイッチを時計方向に回すと、１段目で上向きに２段目で下向きにライトが点灯します。

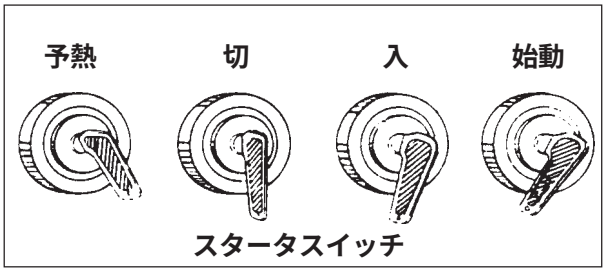
（e）薬液ポンプスイッチ

エンジンを始動してスイッチを押すと薬液ポンプが作動します。もう一度スイッチを押すと停止します。作動中はスイッチが点灯します。

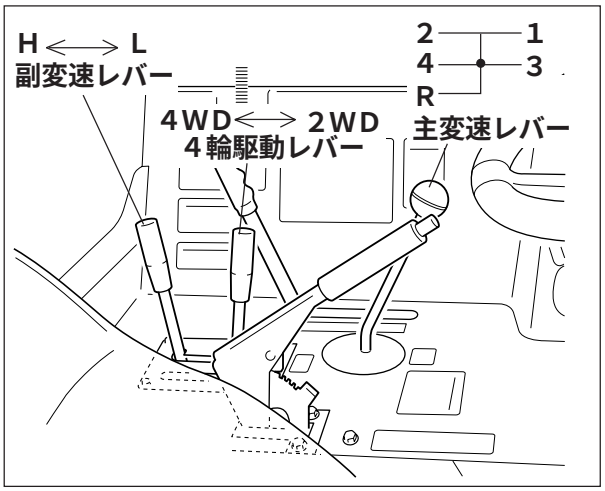


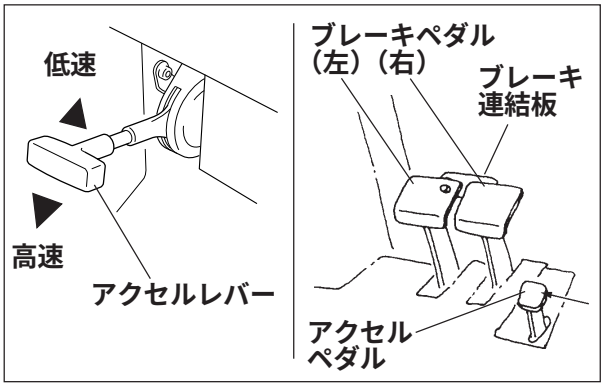
（f）エンジン回転計、積算計

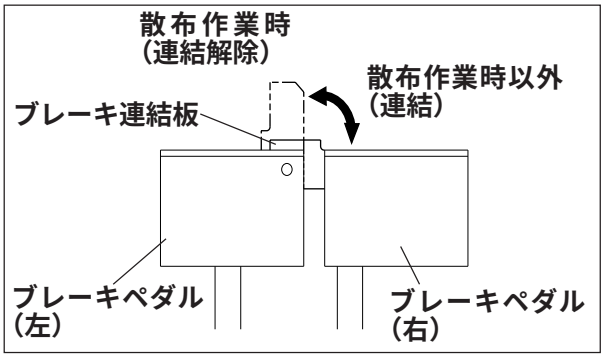
エンジンの毎分回転数を示します。
積算計はエンジンが回転しているときの累計運転時間を表します。この時間数が各部のオイル交換や定期点検等の基準になります。
メーターの数値は次の様に示します。
5枠の数字は１時間で１回転（１目盛６分）し4枠の数字が１を示します。
3枠の数字は4枠の数字が１回転しますと１を示し１０時間を示します。
2枠の数字は3枠の数字が１回転しますと１を示し１００時間を表します。
1枠の数字は2枠の数字が１回転しますと１を示し、１、０００時間を表します。

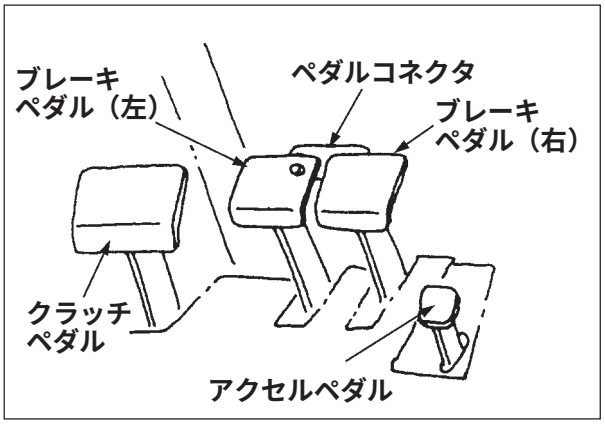


スタータスイッチ









(g) 補給ポンプスイッチ

エンジンを始動してスイッチをあげると電磁クラッチが入りポンプが作動します。

(h) スタータスイッチ

> **⚠ 注意**
>
> 機体から離れるときは必ずキーを抜き保管してください。

主変速レバーおよび副変速レバー

- 主変速レバー、副変速レバーの操作はクラッチペダルを踏み機械を停止させたのち行なってください。

4輪駆動レバー

- 4輪駆動レバーの切換えにより4輪駆動、2輪駆動の選択ができます。
  レバーを「4WD」にすると4輪駆動、「2WD」にすると2輪駆動になります。

アクセルレバー

- このレバーによってエンジン回転を調整します。
  レバーを上げると低速、下げると高速にエンジン回転が変化します。

アクセルペダル

- フットアクセルでも回転を調整できます。
  アクセルペダルを踏み込むと、低速から高速に回転が上がります。

ブレーキペダル

ブレーキペダルは2つあり、右側のブレーキペダルは車体右側の、左側のブレーキペダルは車体左側のタイヤをそれぞれ制動します。ブレーキペダルにはブレーキ連結板が付いていて、これを使用すると、同時に2つのブレーキペダルを踏み込んで左右のブレーキを掛けることができるようになります。

- 散布作業時に片方のブレーキペダルを踏み込むことにより車体を小回りさせることができます。

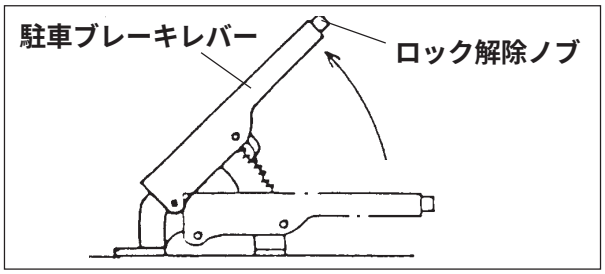
ブレーキ連結板

左右のブレーキペダルを連結、解除します。
連結板が連結の位置にあるときは左右のブレーキペダルが連結されます。この状態にすると、左右のブレーキペダルを同時に踏むことができます。解除にすると左右のブレーキペダルを別々に踏むことができます。

> **⚠ 警告**
>
> 作業時以外は、左右のブレーキペダルをブレーキ連結板で連結しておいてください。

クラッチペダル

- クラッチペダルを踏み込むとエンジンからタイヤへの動力を切断します（クラッチ切の状態）。
  クラッチペダルを戻すと、エンジンからタイヤに動力が伝達されます。



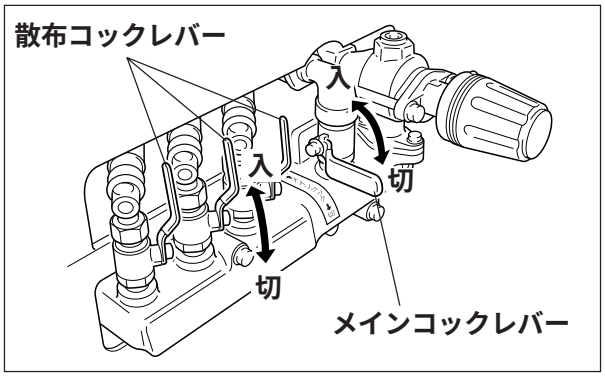
駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを手前にいっぱい引くと後タイヤがロックします。

ブレーキ連結板でブレーキペダルを連結し、ブレーキペダルを踏み込み車体が停止したことを確認してから駐車ブレーキレバーを引いてください。

駐車ブレーキを解除するときはブレーキペダルを踏み込んでから先端のノブを押し、駐車ブレーキレバーを戻します。

- 車体が完全に停止していない状態で駐車ブレーキを掛けると、タイヤが確実にロックしないのでブレーキペダルを踏み込んだ状態で操作してください。

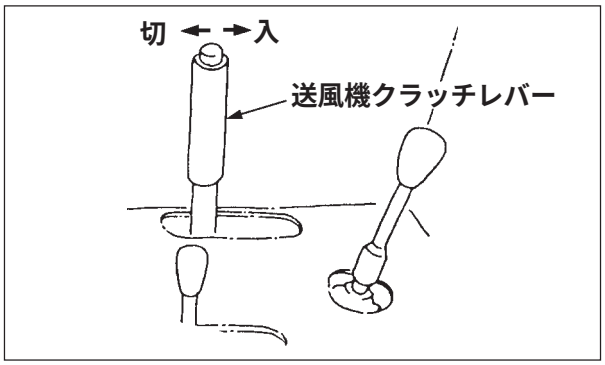


散布コックレバー

- 散布コックレバーは上に上げて薬液を散布し、下に倒して散布を停止します。右、中、左のコックはそれぞれ右、中、左のノズルに対して働きます。

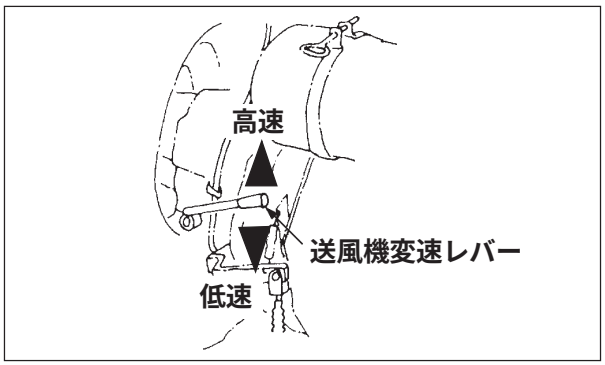
メインコックレバー

- ノズルからの薬液開閉を一度に止めたり開いたりする場合に使用します。



送風機クラッチレバー

- 送風機クラッチレバーは送風機（ファン）を作動させるレバーです。エンジンを始動してレバーを「入」にすると送風機（ファン）が、回りはじめます。「切」に戻すと送風機（ファン）は止まります。



送風機変速レバー

- 送風機は２段切替え装置が付いておりレバーを低に入れると低速になり、高に入れると高速になります。（エンジン回転数２７００ｒ/ｍｉｎ時、低速１５００ｒ/ｍｉｎ、高速２３４０ｒ/ｍｉｎ）

送風機変速レバーの切替時は必ず送風機クラッチを「切」にしてください。

作業を始める前に

⚠ 警告

ステアリング、タイヤ等の整備不良は事故につながります。必ず運転前点検を行なってください。

⚠ 注意

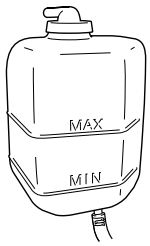
点検・整備は平坦な場所で、エンジンを停止して駐車ブレーキを掛けて行なってください。

⚠ 警告

ブレーキ、クラッチ、ステアリングに異常がある場合、直ちに運転を中止して販売店あるいは地区共立エコー株式会社に整備を依頼してください。

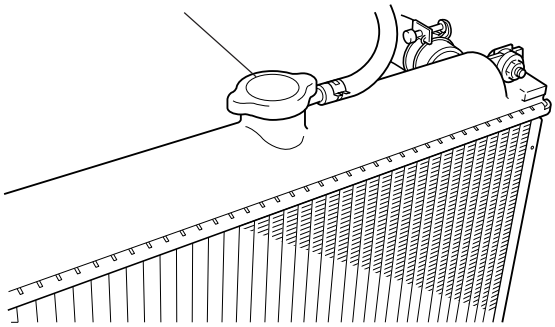
オイルレベルゲージ





リザーブタンク

ラジエータキャップ



⚠ 危険

エンジン停止直後に、ラジエータキャップや冷却水ドレン栓を外すと、蒸気や熱湯が吹き出し大変危険です。ラジエータが冷えてから外してください。

冷却水規定量	６．５Ｌ
補助タンク（リザーブ）	ＭＡＸ　０．９Ｌ ＭＩＮ　０．２７Ｌ

安全な運転と効率の良い作業を行なうために、運転前点検を必ず行なってください。作業後は開けたカバー類を確実に閉めてロックしてください。

ステアリングホイールの確認

- ステアリングホイールに、大きな遊びやガタのないこと。（ホイールの遊びは、ホイール外周で２５mm以内が正規です。）
- ドラックリンク・タイロッドなどに遊びやガタのないこと。

タイヤホイールの点検

- タイヤ空気圧の点検
  規定空気圧は前、後タイヤともに０．２MPa（２．０kgf/㎠）です。
- タイヤに損傷がないこと。
- ホイールナットがゆるんでいないこと。

エンジン関係の点検

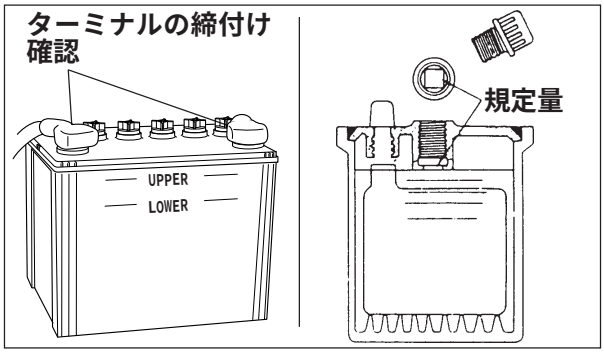
⚠ 注意

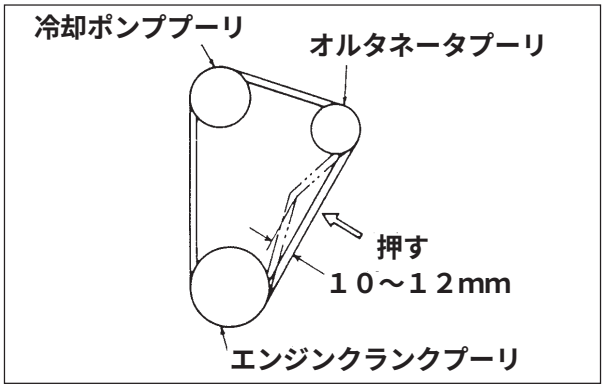
カバーを開けるときはエンジンを停止してください。また点検・整備が終わったらカバーを閉めて確実に固定してください。

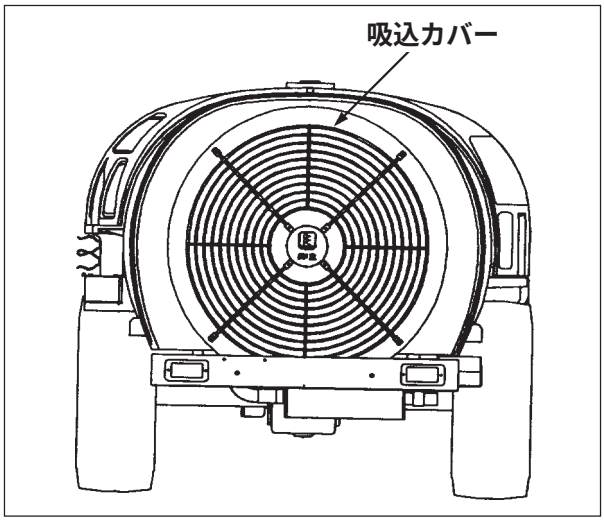
- エンジンオイルの量や汚れはオイルレベルゲージで点検します。（オイル規定量は４０ページを参照してください。）
- エンジン各部の油漏れ
  運転中のエンジンの両側、下方を目視でオイルなどの漏れを点検します。特にオイルフィルタおよびパイプの締付部などを点検します。
- 燃料漏れ
  インジェクションポンプ、燃料パイプ、燃料フィルタなどを目視にて点検します。また各部締付部などに気をつけてください。
- 冷却水漏れ
  ラジエータおよびホース接続部、排水コックなどを目視にて点検します。
- 冷却水は充分あるかどうか確認し、不足している場合はラジエータ給水口下端まで補充します。
- リザーブタンクの冷却水の量がエンジン冷間時に”ＭＩＮ”レベル以下の場合は、冷却水を補充し、常に”ＭＡＸ”と”ＭＩＮ”の間になるようにしてください。
- 寒冷時には不凍液をご使用ください。
  冷却水が凍るとシリンダボディーやシリンダヘッド、ラジエータ、冷却水ポンプなどの破損の原因になりますのでご注意ください。
- 不凍液の有効期間は通常１年間です。不凍液をご使用の際は不凍液の説明書を熟読ください。

⚠ 危険

燃料の給油は周囲に火気がないことを確認し、エンジンを停止して行なってください。
燃料がこぼれた場合はすぐに拭き取ってください。
給油後は燃料タンクのふたが確実に締まっているか確認してください。







燃料タンクの点検

- 燃料は軽油です。軽油の中に水分やゴミが入っていますと、エンジン不調の原因となりますので、きれいな軽油を使用してください。
  軽油をドラム缶で購入される場合は、常にきれいな軽油が燃料タンクに入るように心掛けてください。
- 燃料タンクは右側（薬液タンク）下にあります。

バッテリの点検

- ＋－のターミナル部はしっかりと締付けができているか確認します。
- バッテリの液量は注入口の液面指示までです。
  少ないときは蒸留水を補充します。
- バッテリの上面と側面またターミナルが汚れている場合は、水またはぬるま湯で清掃します。
  ターミナルは防錆のため、ワセリンかグリースを薄く塗っておきます。

Ｖベルトの張りの点検

エンジンクランクプーリとオルタネータプーリの中間を指で押し、たわみが１０～１２mmになるか点検します。たわみ量が多い、または少ないときはベルトの張り調整をします。調整方法は「Ｖベルトの張り調整」（４４ページ）を参照してください。

シャーシの点検

- ホイールをフレームに取付けているボルトにゆるみがないか点検します。

ライトおよびフラッシャランプの点検

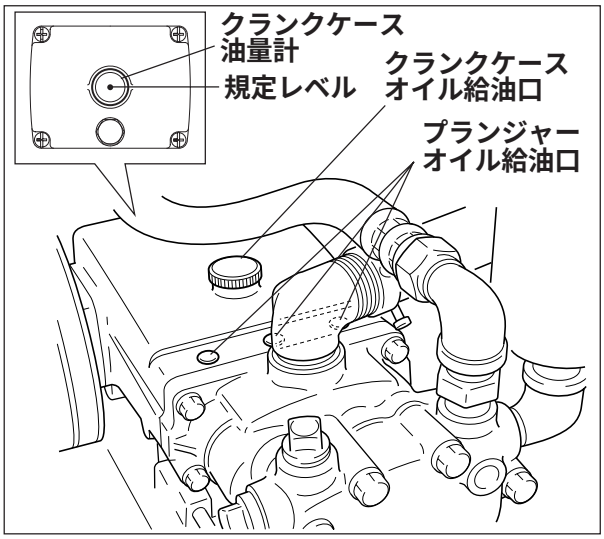
- 前照灯、フラッシャランプが点灯するか、スイッチに故障がないかを点検します。

ホーンの点検

- 作動を確認する。

散布装置の点検

- 送風機吸込み口の点検
  木の葉や小枝およびその他の異物が詰まっていると、送風効果を落しますからその都度取除いてください。
  また送風機内部に入っている場合には、吸込カバーを外して取除きます。（必ずエンジンを停止し、ファンが確実に止まっていることを確認してから行なってください。）
- ノズルの配置と締付状態の確認
  ノズルを全部点検し、合せて締付状態の確認をし、樹形に適したノズル配置を決めてください。樹形に適さないノズル配置で散布作業をした場合、大きな能率低下となり附着性能にも支障をきたします。
- 散布コックの開閉確認
  散布コックのレバーが軽く動くことを確認します。



薬液ポンプの点検

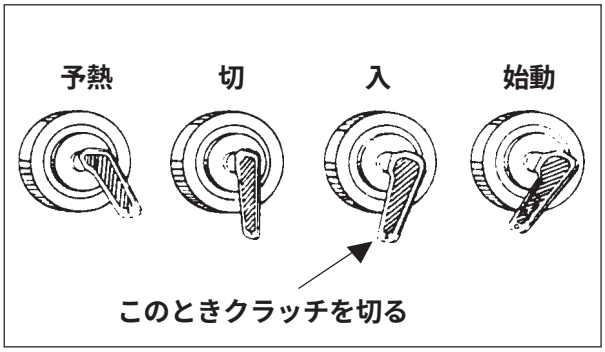
- 本機を水平にしてオイルがポンプクランクケースの油量計の規定レベル（中心部）まであるか確認します。オイルが少ないときは、クランクケースオイル給油口から規定レベルになるまでオイルを給油します。
  使用オイル：ＳＡＥ＃３０エンジンオイル
- 運転前後に、プランジャ部分へオイルを給油してください。
  給油は、オイラで、各プランジャ上部にあるゴム栓の切れ目から行ないます。（１０滴程度）
  使用オイル：エンジンオイルＳＡＥ＃３０

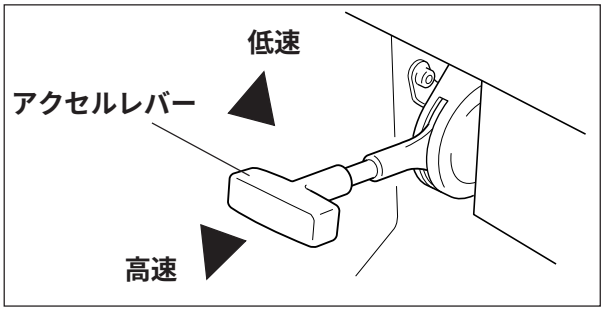
ポンプベルトの点検

- ベルトの張り具合、キズなどを確認します。

⚠ 警告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内ではできるだけ始動しないでください。車両の移動のためにやむを得ず始動するときは窓や戸を開けて換気を行ない、始動後は速やかに屋外に移動してください。屋内では暖機や長時間の運転はしないでください。





重要

始動安全装置がついていますので、クラッチペダルを一杯に踏まないとエンジンは始動しません。

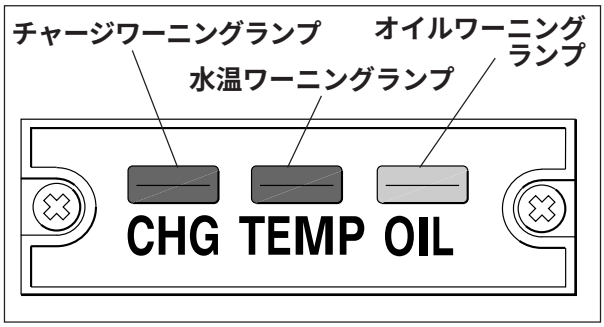
エンジンの運転

運転前の点検が終わってから始動します。

⚠ 注意

駐車ブレーキが掛けてあり、主変速レバーが「中立」の位置にあることを確認します。
送風機・薬液ポンプを「切」の状態にしておきます。また、周囲の安全を確認しておきます。

- スタータスイッチにキー差し込みます。キーの出し入れは「切」でのみ可能です。
- 予熱‥‥グロープラグを赤熱させます。赤熱状態は予熱ランプで示されます。
  グロープラグの予熱には約１０秒必要です。（寒冷時には１０秒以上必要な場合もあります。）
- 始動‥‥予熱ランプ内のニクロム線が赤熱したら、クラッチペダルを一杯踏み込み、アクセルレバーを手前に引き、キーを「始動」にしてセルモータをまわしエンジンを始動します。このとき、セルモータは１０秒以上連続して回し続けないでください。また一度でエンジンが始動しない場合は、セルモータとエンジンの回転が完全に停止してから、再びエンジンの始動をしてください。
- 「入」‥‥エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。キーは自動的に戻ります。
- エンジン始動後にクラッチペダルを戻し、アクセルレバーを戻して低速で暖機運転を行ないます。



⚠ 注意

点検・整備は平坦な場所で、エンジンを停止して駐車ブレーキを掛けて行なってください。

運転中の点検

計器および警告灯の指示、振動、異音、排気音、臭気、排気色などを調べます。

●潤滑油圧力および充電状態

パネルのオイルワーニングランプとチャージワーニングランプはスタータスイッチを「入」にすると点灯し、エンジンが始動すると消えます。（２１ページパネル説明参照）

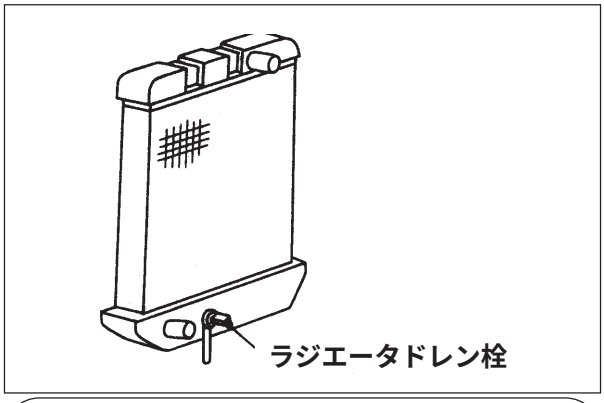
もし「入」にしても点灯しないまたは、エンジンが始動しても消灯しないときは、直ちにエンジンを停止して点検整備してください。

●冷却水温

水温は高くても低くてもエンジンの調子が悪くなります。特に水温が低いと、燃料消費量が多くなりますから充分暖機運転をします。

エンジンの停止

●アクセルレバーによりエンジンの回転を下げ、低速にして２～３分運転した後、スタータスイッチを「切」にしてエンジンを停止します。



⚠ 危険

エンジン停止直後に、ラジエータキャップや冷却水ドレン栓を外すと、蒸気や熱湯が吹き出し大変危険です。ラジエータが冷えてから外してください。

寒冷時のエンジンの始動および点検

●エンジンの始動

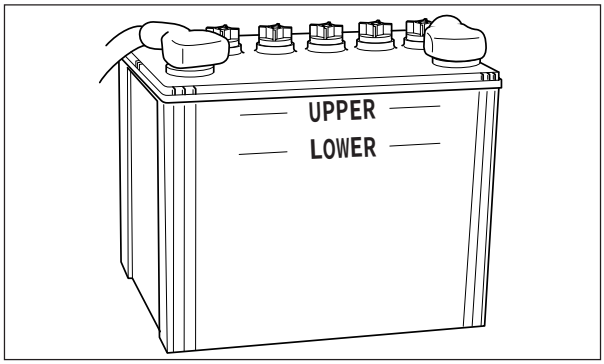
寒冷時には、充分予熱したのち、クラッチペダルを一杯に踏み込んで、アクセルレバーを高速にし、セルモータを回します。始動したらアクセルレバーを低速にして暖機運転を行なってください。

●冷却水の凍結に注意

冷却水に水を使用すると、シリンダボディーやヘッドを破損する恐れがありますからロングライフクーラントまたは不凍液を使用してください。

●ラジエータドレン栓

冷却水を抜く場合はラジエータキャップを外してください。ラジエータキャップをつけたままでは冷却水が抜けにくく完全に抜けない場合があります。



●バッテリ充電状態に注意

低温になると、バッテリの容量が減少するので、バッテリの点検を励行し、常にバッテリを完全充電状態に保つようにします。

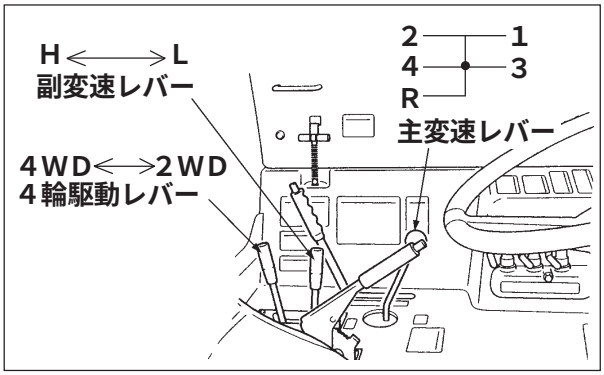
●エンジンの冷えすぎに注意

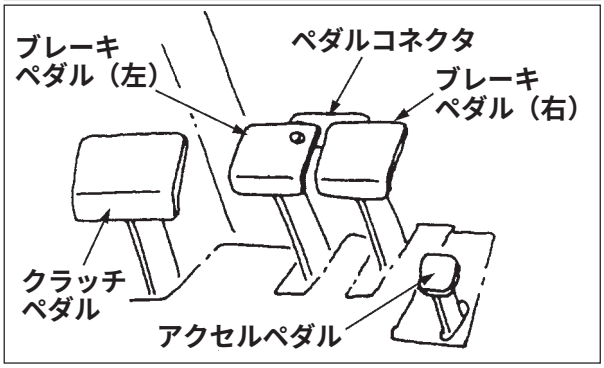
エンジンの冷えすぎは熱効率を悪くします。充分暖機運転を行なってください。

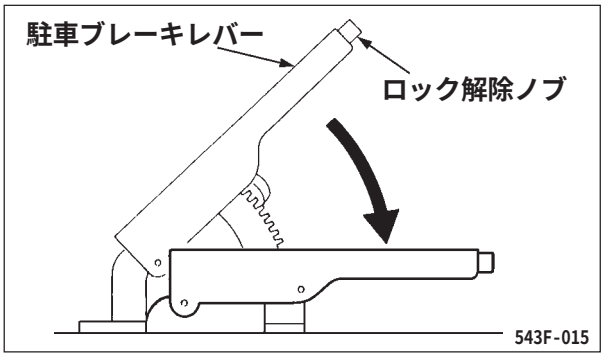
機械の運転

⚠ 危険

- 急発進、高速急旋回は、危険ですので絶対に行なわないでください。
- 走行中に飛び降り、飛び乗りは絶対にしないでください。
- 片ブレーキ付の機体では高速走行時に片側だけのブレーキペダルを絶対に踏み込まないでください。急旋回して非常に危険です。ブレーキ連結板でブレーキを確実に連結してください。







⚠ 危険

坂の途中でクラッチを切ったり、変速レバーを操作すると危険です。

⚠ 注意

変速レバーの操作は、必ず機械を停止させてから行なってください。

車両の寿命や維持費は、扱い方（特に運転操作のしかた）により異なってきます。

運転姿勢の調整

- バックミラーの角度を調整し後方確認を行なってください。

発進の方法

⚠ 注意

- 発進する前に周囲の安全を確認をしてください。
- 後進時は特に機体の死角になる部分を降りて確認し、低速で発進してください。

- クラッチペダルを踏みます。
- 速度表から使用する速度を選び、主変速レバーおよび副変速レバーを操作します。
- ４輪駆動レバーを２駆または４駆に入れます。

⚠ 注意

副変速が高速のときにアクセルレバーを引いた状態（エンジン高回転）での発進は機械の故障の原因となりますのでしないでください。

- 駐車ブレーキを解除します。
- アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
- アクセルペダルを踏み込んでもエンジン回転は上がります。

⚠ 注意

移動走行時は速やかに減速できるように、アクセルペダルを使用してください。

- クラッチペダルをゆっくリ戻します。車両が動き出したら、クラッチペダルから足を離します。クラッチは無駄に長い間すべらせないでください。副変速レバーを「高速」にして発進するときは、急発進しないように、アクセルペダルでエンジン回転を調整してください。

重要

駐車ブレーキを掛けた状態で発進しますと、ミッション、プロペラシャフトやブレーキなどに故障を起こすことがあります。
必ず駐車ブレーキを解除してください。

坂道の運転

- 急な坂道では前もって副変速を低速にしておき、ゆっくり走行してください。
- 坂を降りるときの速度は、坂を登る速度よりも遅くしてください。

⚠ 注意

移動走行時は速やかに減速できるように、アクセルペダルを使用してください。

⚠ 危険

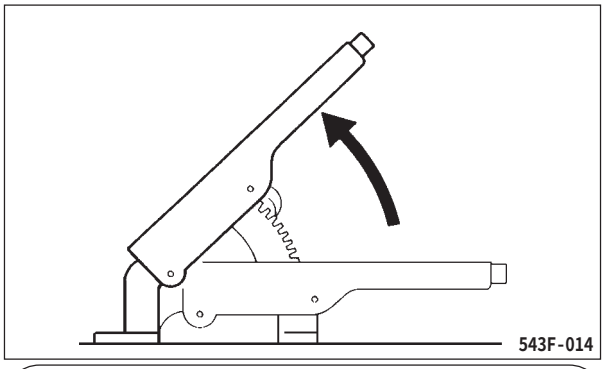
高速走行時は絶対に片側だけのブレーキペダルを踏み込まないでください。急旋回をして非常に危険です。

⚠ 警告

作業時以外は、左右のブレーキペダルをプレーキ連結板で連結しておいてください。

走行中の注意

- 最初走り出すときには、必ずブレーキの作動を確認してください。
  ブレーキは左右とも確実に効き、左右のブレーキペダルを別々に踏み込んだとき、左右のペダルの踏み込み量が同じになることを確認してください。
- クラッチが確実に断続し、滑ったりしないことを確認してください。
- 散布作業時、小回りしたいときにはステアリングホイールを一杯に切り、クラッチを切らずに（駆動したままで）曲がりたい方のブレーキを踏み込んで旋回します。
- スピードスプレーヤは、普通の車両よりエンジン出力が大きく、車速の関係から大きな減速比を採用しておりますので、ブレーキペダルはしっかり踏み込んでください。
- 変速操作は必ずクラッチペダルをいっぱいに踏み込んで操作し、確実にギヤが入ったことを確認してから、発進してください。



⚠ 警告

坂道には駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキのほか歯止めをしてください。

機械の停止

- アクセルレバーを戻して低速にします。
- ブレーキペダル、クラッチペダルを踏み車両を停止させます。停止後もブレーキペダルは踏み続けてください。
- 主変速レバーを中立に戻します。
- 駐車ブレーキを掛けます。その後、ブレーキペダルより足を離してください。
- 薬液ポンプスイッチが入っている場合はスイッチを切ります。
  送風機クラッチが入っている場合はクラッチを切ります。
- 始動スイッチのキーを「切」にするとエンジンが停止します。
- 散布作業を行なったあとは必ず数分間低速運転をして、エンジンを充分に冷却してから停止してください。

パワーステアリングの取扱い

⚠ 警告

傷害事故防止のために

- **下り坂などでエンジンを停止したまま走行しないでください。**
- **エンジンが停止するとパワーステアリング装置が動かなくなりハンドルが重くなり衝突や転落などの事故になることがあります。**

- **この機械はパワーステアリングを装備していますので、ハンドルが軽く操作できます。**
  ハンドル操作は次の点を注意して行ないます。

取扱いのポイント

- **圃場条件、タイヤ荷重大などによりすえ切りができないことがあります。**
  このような場合には、ハンドルを無理に回さず機械を前後に動かして操舵してください。
- **ハンドルをいっぱいに切った後､さらにハンドルを回すことは避けてください。**
  車体に無理な力をかけることになり、機械の寿命を縮めます。
  また、タイヤを溝に落としたままハンドルを切ったりすることも､同様に車体､特にタイヤ､ホイルに影響をおよぼします。
- **ハンドルをいっぱいに切ったとき､まれに異音がする場合がありますが、回路中のリリーフ弁によるリリーフ音で使用上問題はありません。**
- **寒冷地などで始動直後異音が発生し､ハンドルが重いのは油がかたいためです。暖機運転をしてから使用すれば問題はありません。**
- **ハンドルをいっぱいに切ったまま長時間使用すると､油温が上昇し､装置の寿命を縮めます。**
- **走行中エンジンが停止したときは、パワーステアリング装置が動かなくなり、ハンドルが重くなりますので、速やかにエンジンを再スタートしてください。**

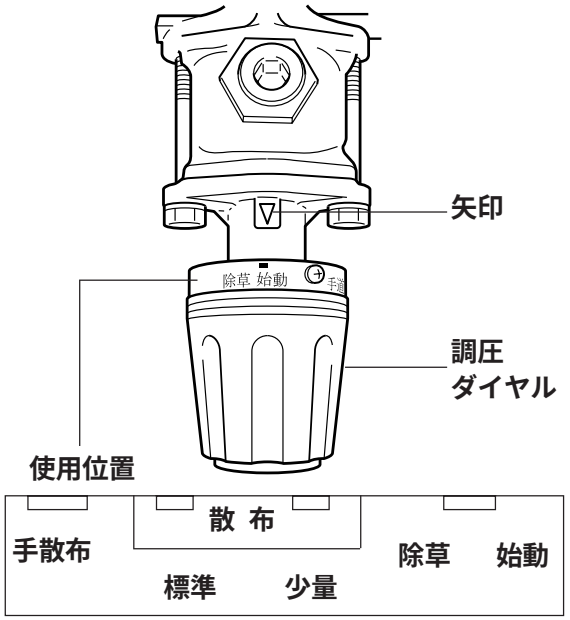
散布作業

⚠ 警告

- 飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。
- 残った薬液や洗浄水は薬害を起こさない濃度で、自分の園内で処理してください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮してください。

重要

- 薬液投入の際は必ずタンクこし網を使用してください。
- 石灰類を使用する際は薬液ポンプを作動し、薬液のかくはんを充分に行なってください。



重要

５分間以上カラ運転をしないでください。
本機の薬液ポンプは自吸する薬液を圧力シールの潤滑材としています。５分以上カラ運転をすると圧力シールの耐久性が劣り故障の原因になります。

薬液散布準備

薬液タンクの準備

- 薬液タンクのドレン栓を締付けます。

補給ポンプと薬液の準備

（ＳＳＶ６５３Ｆ／１は除く）

- 主変速レバーを「中立」にします。
- 駐車ブレーキレバーを引いてブレーキを掛けます。
- ホース支えから補給ホースを外し、ストレーナを貯水池につけます。
- アクセルレバーを低速にして、補給ポンプスイッチを「入」にして補給ポンプを作動させます。
- アクセルレバーでエンジンの回転を調整し補給ホースからの吐出量を調整します。
- 作業が終わりましたら、補給ポンプスイッチを「切」にしてポンプを停止します。

薬液散布

薬液散布は、次の順序で行ないます。

１.アクセルレバーをゆっくり開きエンジン回転数を規定回転数まで上げます。

２.薬液ポンプを作動させ、調圧ダイヤルを目的に合わせてセットします。
薬液ポンプを始動させるときは調圧ダイヤルを始動の位置に合わせてから薬液ポンプスイッチを押してください。
圧力は、調圧ダイヤルの使用したい位置を矢印に合わせて調整します。

除草剤	－０．５MPa(５ｋｇｆ／ｃｍ²)
少　量	－１．０MPa(１０ｋｇｆ／ｃｍ²)
標　準	－１．５MPa(１５ｋｇｆ／ｃｍ²)
多　量	－２．０MPa(２０ｋｇｆ／ｃｍ²)
手散布	－２．５MPa(２５ｋｇｆ／ｃｍ²)

重要

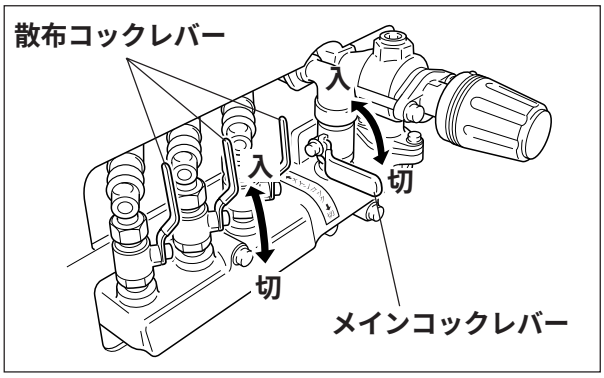
手散布作業時以外では、調圧ダイヤルを手散布の位置にはしないでください。

重要

薬液ポンプを停止させるときは調圧ダイヤルを始動の位置に戻してから薬液ポンプスイッチを押して停止させてください。

３.クラッチペダルを踏み込み、変速レバーを操作します。

４.クラッチペダルを静かにはなし、走行します。



５．散布コック

●薬液管が上側と左側、右側の３分割になっており、これに合わせて散布コックが付けてあります。

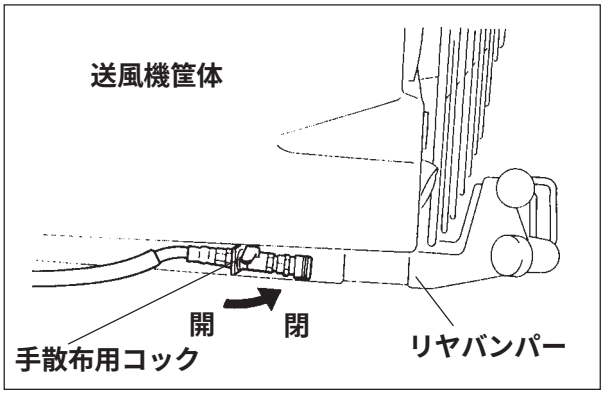
●それぞれ、作業に合わせてコックを「入」にします。

６．メインコック

●このコックレバーを「切」にしますと散布コックを「入」にしてもノズルからの薬液は出ません。

●薬液管の３ケ所から同時に散布するときに利用すると便利です。この場合散布コックは全部「入」にしておきます。

●各々の散布コックを使用する場合はメインコックは「入」にしておきます。



手散布（補正散布）

機体後部に補正散布コックがあります。
補正散布が必要な場合は、手散布用コックを開いてください。

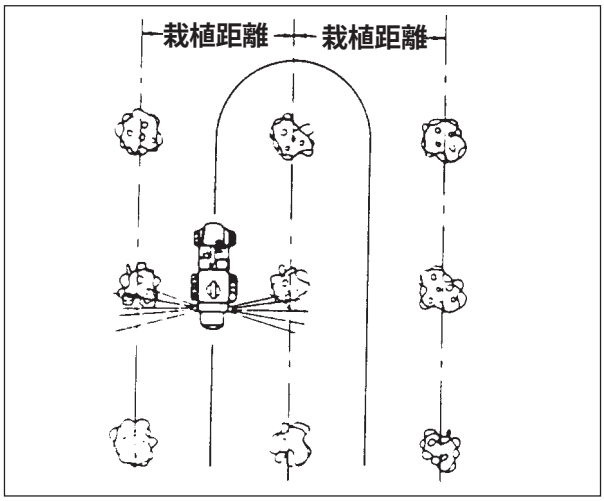
散布終了

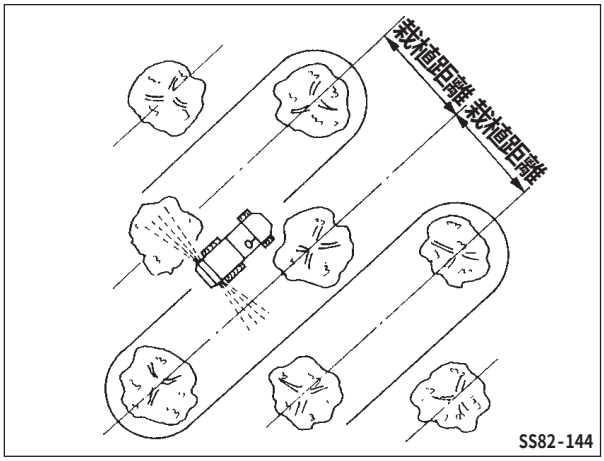
１.クラッチを切り、ブレーキを踏んで車両を停止し、主変速を中立にします。

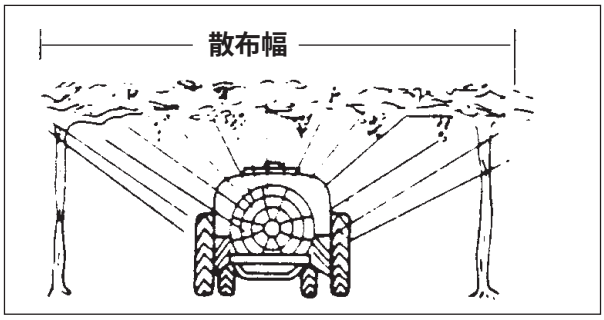
２．送風機クラッチを「切」にします。

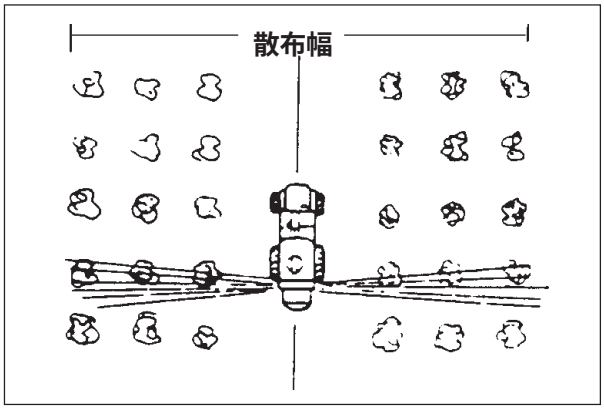
３．薬液ポンプスイッチを「切」にします。

４.アクセルレバーを低速に戻してから、エンジンを停止させます。









散布計画

薬液の散布に当たっては予め綿密な計画と手順を決める事が必要です。

- 散布する薬剤の種類と散布量を決めます。
- 木の栽植距離によって散布幅を決めます。
- 両側散布か、片側散布かを決めます。
- 木の大きさ、葉の茂り具合や風の強さや方向によってノズルの種類、案内板の向きと位置、走行道順を選定します。

これらの条件をよくまとめてから、次の散布諸元を決定します。

散布諸元

散布量：Ｌ／１０ａ（リットル／１０アール）

- 散布対象となる病害虫の種類と使用する薬剤の濃度、種類などにから散布量を決めます。

散布幅：ｍ（メートル）

- 各列ごとの樹間散布のときは栽植距離を散布幅とします。
- 片側散布では散布幅は栽植距離の１／２となります。

走行速度：ｋｍ／ｈ（キロメートル／時）

- 散布に最も適切な走行速度は、送風性能と樹形整枝の状況などから決めます。速度を遅くすると薬液の到達・浸透性は大きく、早くすると小さくなります。従って果樹の葉の繁茂状態に合せ走行速度を変化させて、最も効果的な走行速度を決めることが必要です。

通常１～３ｋｍ／ｈが適正な散布走行速度の範囲です。

散布走行速度は次の計算式で表されます。

$$\text{散布走行速度（ km／h ）} = \frac{\text{ノズル総吐出量（ L／min ）} \times 60}{\text{散布幅（ m ）} \times \text{散布量（ L／10a ）}}$$

ノズルの総吐出量：Ｌ／ｍｉｎ（リットル／分）

- **ノズルの総吐出量とは配置した全ノズルから毎分吐出する総量で、使用される個々のノズルの穴径、中子の種類、および個数によって算出します。**
- **ノズルの配置は散布の対象となる樹形、整枝の状態によって異なりますからよく木の状態を観察して密生している部分には吐出量の多いノズルを配管して、また平均に薬液が付着するよう考えることが大切です。**
- **ノズルの総吐出量はノズル性能表を使って算出してください。**
- **本機に搭載している薬液ポンプの圧力は、標準で１．５MPa(１５ｋｇｆ／ｃｍ²)です。このときのノズル圧力は１．５MPa(１５ｋｇｆ／ｃｍ²)です。ノズル圧力１．５MPa(１５ｋｇｆ／ｃｍ²)のノズル性能表を読んでください。**
- **ノズル総吐出量を越えないようノズルの数、ノズル穴径と中子の組合わせを選んでください。**

ノズルの選択

- **本機のノズルはノズルと中子の組合わせで使用します。**
- **ノズルは吐出量を変えるとき、中子はノズルからの噴霧の拡散角度を変えるときに交換します。**

中子には次の種類があります。

２ホール……拡散型（霧が細かく拡散角度が大きく広範囲にわたり平均化した噴霧が可能）
セミ３ホール…中間型（２ホールと３ホールの中間の噴霧が可能）
３ホール……直進型（拡散角度が小さく直進力に富むため浸透性、到達性が大きく樹冠内部にまで到達が可能）

中子



２ホール　セミ３ホール　３ホール

●ノズルには次の種類があります。各ノズルと中子の組合わせ吐出量は次の通りです。
ノズル性能表（中子とノズル組合わせによるノズル１個当りの吐出量）

ノズル 圧　力	ノズル径	２ホール （拡散型） 		セミ３ホール （中間型） 		３ホール （直進型） 	
		吐出量	拡散角度	吐出量	拡散角度	吐出量	拡散角度
１．０MPa （１０kgf/cm²）	１．０㎜φ	１．０L/min	４５°	１．３L/min	３０°	１．５L/min	２０
	１．２	１．３	５０	１．８	３５	２．３	２５
	１．４	１．７	５５	２．５	４０	３．３	３０
	１．６	１．９	６０	２．９	４５	４．１	３５
	１．８	２．３	６３	３．６	４８	５．４	４０
	２．０	２．５	６５	４．１	５０	５．８	４５
	２．２	２．９	７０	４．７	５５	７．１	４８
	２．４	３．１	７５	５．１	６０	７．５	５０
	２．８	３．８	８５	６．１	７０	８．９	６０
１．５MPa （１５kgf/cm²） （標準）	１．０	１．３	４５	１．６	３０	１．９	２０
	１．２	１．７	５０	２．３	３５	２．８	２５
	１．４	２．１	５５	３．０	４０	４．０	３０
	１．６	２．５	６０	３．７	４５	５．１	３５
	１．８	２．８	６３	４．５	４８	６．５	４０
	２．０	３．２	６５	５．１	５０	７．３	４５
	２．２	３．５	７０	５．８	５５	８．７	４８
	２．４	４．１	７５	６．４	６０	９．３	５０
	２．８	４．９	８５	７．７	７０	１１．１	６０
２．０MPa （２０kgf/cm²）	１．０	１．５	４５	１．９	３０	２．２	２０
	１．２	１．９	５０	２．７	３５	３．３	２５
	１．４	２．４	５５	３．５	４０	４．７	３０
	１．６	２．８	６０	４．３	４５	５．９	３５
	１．８	３．３	６３	５．０	４８	７．４	４０
	２．０	３．７	６５	５．９	５０	８．５	４５
	２．２	４．１	７０	６．５	５５	９．９	４８
	２．４	４．６	７５	７．５	６０	１０．９	５０
	２．８	５．５	８５	８．９	７０	１２．９	６０

●ノズルの総吐出量は次の式で計算してください。
ノズル総吐出量（Ｌ／ｍｉｎ）

$$= \frac{\text{散布速度（km／h）} \times \text{散布幅（m）} \times \text{散布量（L／10a）} \times \text{圃場係数（0．6〜0．8）}}{60}$$

散布計画例
散布量４００Ｌ／１０ａ…防除暦などからの１０ａ当たりの散布
散布幅７．２m……樹間距離などから決まります。
（片側散布の場合は１／２となります。）
散布速度１．８km／h…機種形式・対象作物によって変わりますが通常低速を選びます。
圃場係数０．７…… 圃場条件により選定します。
０．６：軟弱地、傾斜地の多い圃場
０．７：草生地、標準的な圃場
０．８：乾燥した平地、直線走行の長い圃場
◎１０ａ当り散布量の計算は下記の式にて算出します。

$$\text{10a当り散布量（L／10a）} = \frac{\text{ノズル総吐出量（L／min）} \times 60}{\text{散布幅（m）} \times \text{散布速度（km／h）} \times \text{係数（0．6〜0．8）}}$$

○ノズル総吐出量の計算例

ノズル総吐出量（Ｌ／ｍｉｎ）

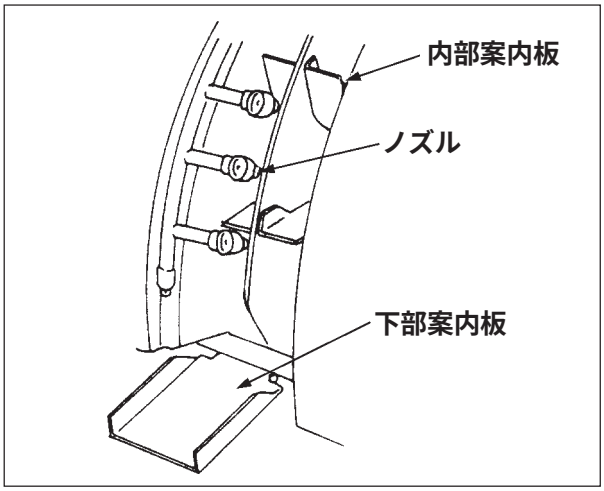
$$= \frac{１．８（km／h）\times ７．２m \times ４００（L／１０a）\times ０．７}{６０} = ６０．５L/min$$

ノズル圧力１．５ＭＰａ(１５ｋｇｆ／ｃｍ²)で散布するときのノズル組合わせを下に示します。

中　子	ノズル穴径（mm）	個 数	吐出量（Ｌ／ｍｉｎ）
２ホール	１．２φ	２	３．４
〃	１．６φ	２	５．０
セミ３ホール	１．２φ	２	４．６
〃	１．６φ	４	１４．８
〃	２．０φ	４	２０．４
〃	２．４φ	２	１２．８
計		１６	６１．０

なお不用なノズルにはノズルプラグを使用してください。

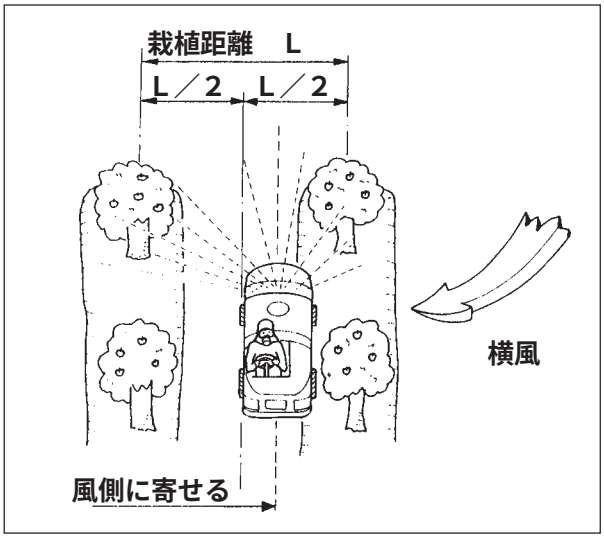
このような方法で中子・ノズル穴径・個数の組合わせを求めます。



散布方法

案内板の調整

- 噴頭には下部案内板があります。
- 下部案内板は噴頭から出る風を全体的に上方へ向けるときに使用します。

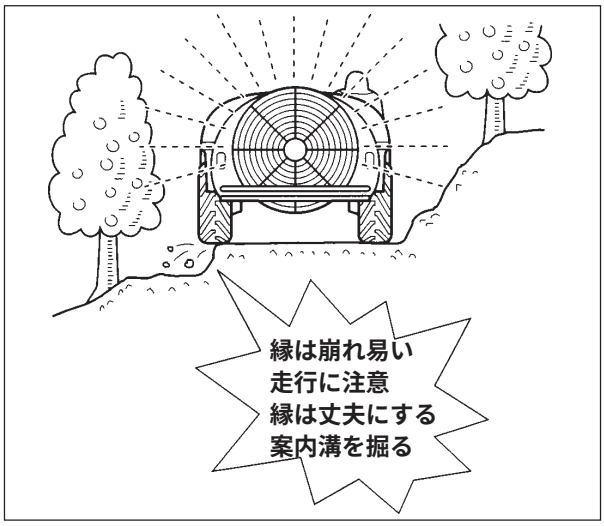


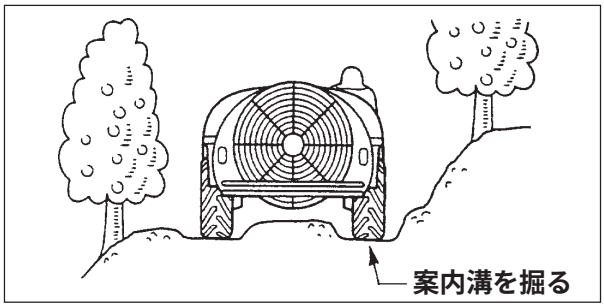
自然風に対して

- 薬液の到達性は自然風の影響で大きく変化しますので、その日の気象状態をよく考えて散布速度や走行道順などを定めます。
- 風向には向風、迫風、横風などの場合がありますが、横風に対しては風上に機体を寄せるようにして走行します。

重要

できるだけ無風時（早朝や夕方など）を選んで散布しますと到達距離は増します。

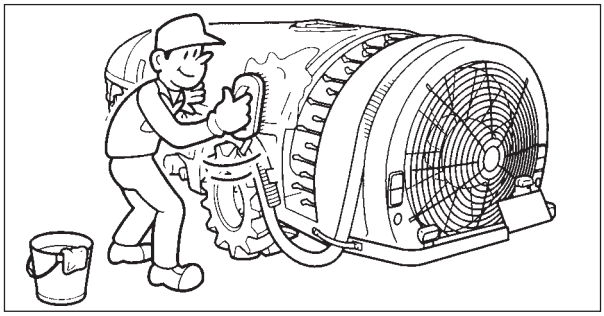




走行道路

- 農道および散布道の幅は最低２m必要です。
- 傾斜地などのテラス式（等高線方式）の道路は路肩が崩れやすいので走行に注意してください。
- 壌土だけの道路では特に降雨後などスリップしたり崩れたりしやすいので、日頃砕石や砂利などを敷いて堅固にしておく必要があります。
- 草生栽培することも路面を硬くする良い方法です。この場合水はけも良くスリップの心配がありません。
- 傾斜地では高い方の路面に溝を掘りタイヤの案内溝とすることにより安定した走行ができます。
- わだちが深くなりすぎると機体下部を傷つけたり、異物を巻込みますので１０ｃm以上になったら路面を修正してください。

作業が終わったら



⚠ 警告

- 残った薬液や洗浄水は薬害を起こさない濃度で、自分の園内で処理してください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮してください。

⚠ 注意

カバーを開けるときはエンジンを停止してください。また点検・整備が終わったらカバーを閉めて確実に固定してください。

清　掃

１日の散布作業が終わったら、次の要領で使用後の清掃をしてください。

洗浄運転

薬剤で汚れた部分は清水できれいに洗浄します。機体は常に清潔な状態にしておくことを心掛けてください。

- 薬液タンクに清水を補給し散布の要領でノズルから吐出し、薬液配管内の洗浄を行ないます。

⚠ 注意

- 点検・整備は平坦な場所で、エンジンを停止して駐車ブレーキ掛けて行なってください。
- 清掃する前に送風機が確実に停止し、ノズルから薬液が出ていないことを確認してください。

- ノズルプラグの使用個所も時々外して清掃してください。
- こし網（タンク入口こし器、薬液ストレーナ）をきれいにします。
  薬液の粗粒がつまっていることが多いのでよく清掃してください。

⚠ 危険

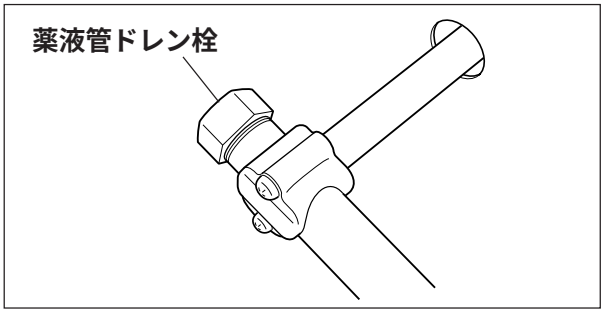
エンジン停止直後に、ラジエータキャップや冷却水ドレン栓を外すと、蒸気や熱湯が吹き出し大変危険です。ラジエータが冷えてから外してください。

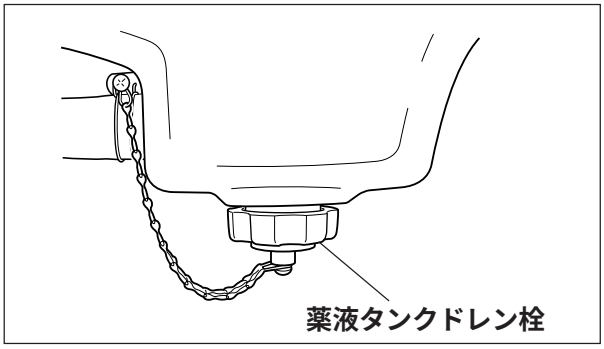
エンジン

- エンジン冷却水は毎回排水する必要はありませんが、寒冷時凍結の恐れがあるときは、右下側エンジン取付フレーム部のドレン栓より完全に排水してください。
- **ラジエータの目づまりはエンジンオーバーヒートの原因**となりますのでラジエータフィンを傷つけないようにして時々清掃してください。

送風機の清掃

- 送風機の吸込み口に木の葉、小枝およびその他の異物が付いていると、送風効果が低下しますのでその都度取除きます。
  （必ずエンジンを停止し、ファンが確実に止まっていることを確認してから行なってください。）

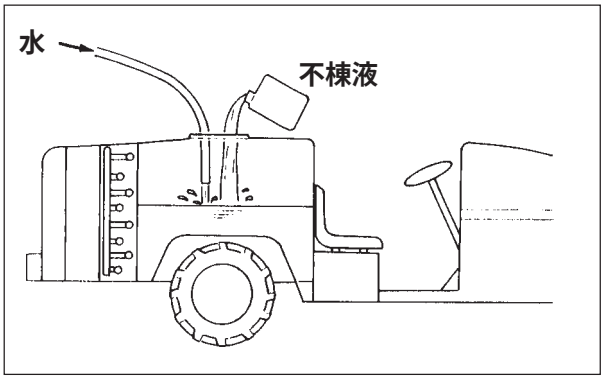




各部の水抜き

薬液系統のドレン栓は次のとおりです。

- 薬液タンクドレン栓　１個
- 薬液ポンプドレン栓　１個
- 薬液管ドレン栓　　３個
- 分配管ドレン栓　　２個



寒冷時の格納

排水排液を完全にします

- 春先や冬季の使用後の格納は凍結による破損事故を防ぐために特に排水は完全にしてください。
- 排水後薬液タンクに不凍液を入れ、一度薬液ポンプを運転しノズルから吐出しますと凍結防止になります。（不凍液の説明書に従がって、水と不凍液の混合液を作ってください。）

各部の清掃

- 機体各部の汚れをできるだけきれいに清掃し、常に機体を清潔な状態にしておくことを心掛けてください。

点検・整備

給油

⚠ 注意

- 点検・整備は平坦な場所で、エンジンを停止して駐車ブレーキを掛けて行なってください。
- カバーを開けるときはエンジンを停止してください。また点検・整備が終わったらカバーを閉めて確実に固定してください。

- 潤滑油について

潤滑油には、潤滑作用のほかに冷却・洗浄作用もあります。潤滑油の給油は車両の性能、耐久性と重大な関係をもっていますから、規定の使用時間によって良質の油を適量給油してください。
エンジンオイルの交換は、運行直後オイルが暖かいうちに抜き取ると作業が容易です。また、機械は水平にして行ないます。

区　分	項　目	交換時期	油の種類	規定量
エンジン	クランクケース	初回２５時間 次回１００時間毎 又は年間整備時	ディーゼルエンジン オイル ＣＣ級１０Ｗ－３０	５．４Ｌ
動力伝達装置	メインミッション	初回５０時間 次回２００時間毎 又は２年に１回	ギヤオイル ＳＡＥ＃９０	１．２Ｌ
	フロントギヤケース	〃	〃	０．５Ｌ
	送風機ギヤケース	〃	〃	０．７Ｌ
	フロントアクスル	〃	〃	１．０Ｌ ０．３Ｌ
	リヤアクスル	〃	〃	８．５Ｌ
薬液ポンプ	クランクケース	〃	エンジンオイル ＳＡＥ＃３０	１．３Ｌ
	プランジャ基部	毎回使用前	〃	適量
ステアリング	オイルタンク	初回５００時間 次回２００時間毎 又は２年に１回	出光ＡＴＦ－ＤＸ （相当）	３．０Ｌ

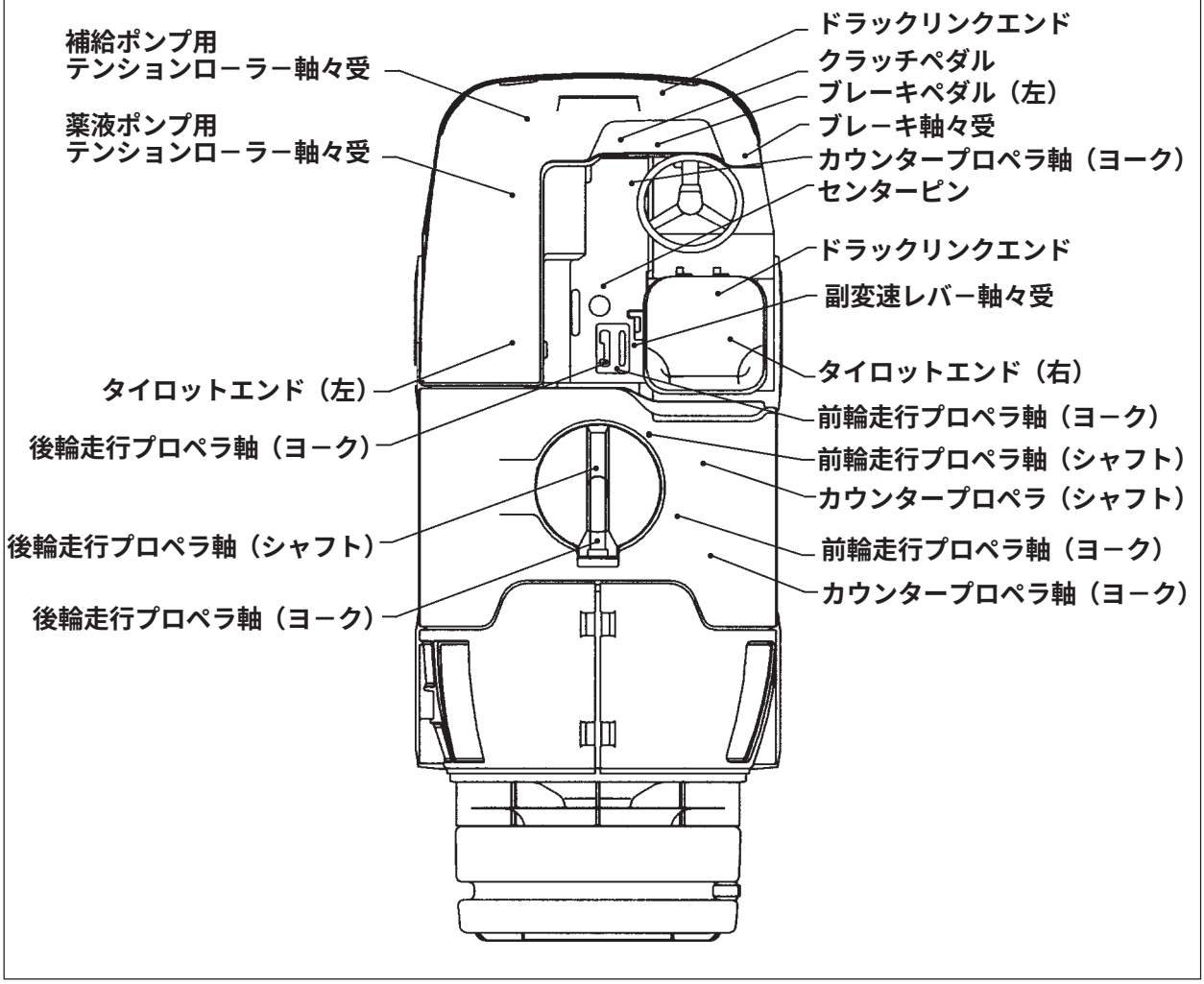
重要

交換後のオイルなどは、ゴミの中や地面、排水溝などには捨てないでください。処理は専門の業者に回収を依頼してください。

重要

指定オイル以外のオイルを使用するとトラブルの原因になりますので、オイルは上記の指定オイルをご使用ください。

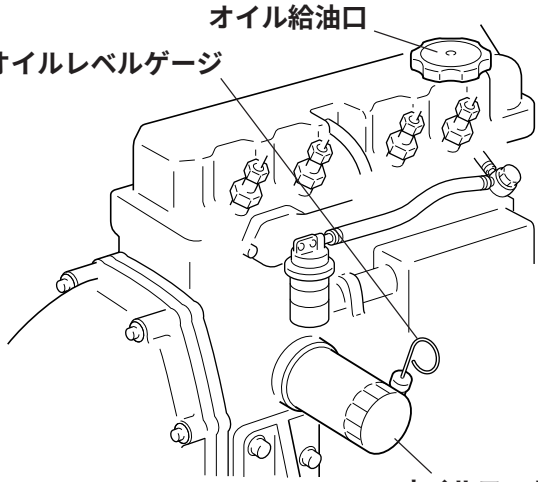
グリース給油図

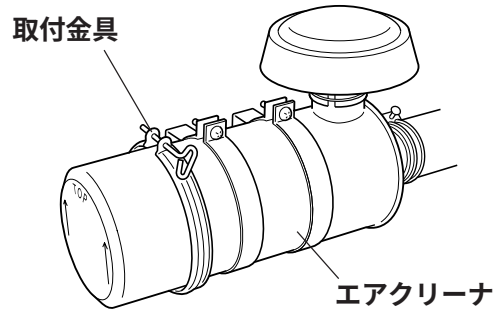


給 油 箇 所	給油時期	グリース又は油の種類	数
ドラックリンクエンド	５０時間毎	シャーシグリース	2
タイロットエンド	〃	〃	2
クラッチペダル	〃	〃	1
ブレーキペダル（左）	〃	〃	1
ブレーキ軸々受	〃	〃	1
カウンタープロペラ軸	〃	〃	3
センターピン	〃	〃	1
副変速レバー軸々受	〃	〃	1
前輪走行プロペラ軸	〃	〃	3
後輪走行プロペラ軸	〃	〃	3



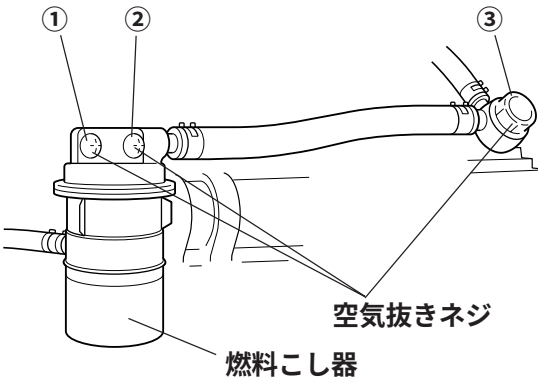
オイルレベルゲージ





エアクリーナの点検と清掃時期

ホコリ・ゴミの多い場所	２０時間毎
普通の場所	５０時間毎



重要

エレメントはガソリンで洗浄しないでください。

各部の点検

潤滑系統

●オイルフィルタエレメントは、エンジンの右側中央部にあります。

〈オイルフィルタエレメント交換時期〉

交換時期‥‥エンジンオイル交換時

〈オイルフィルタエレメント交換要領〉

１）.オイルフィルタエレメントを取外し、新品のオイルフィルタエレメントと交換します。

２）.組付けるとき、オイルフィルタエレメントのＯリングに油をうすく塗布します。

３）.締付けは手で行ないＯリングとオイルフィルタブラケットが当たってから２／３回転締付けてください。

４）.エンジンを始動させオイルフィルタエレメント取付け部からオイル漏れのないことを確認してください。

●エンジンオイル

エンジンを始動する前に、オイルレベルゲージによりオイルの量を調べます。レベルゲージの上下矢印の間にあれば適量です。オイルが不足している場合は、給油口より給油し、数分後再び油量を点検します。

エアクリーナ系統

●エアクリーナ本体にある取付金具を外し、ボディー内よりエアクリーナエレメントを取出します。

●ボディー内部のゴミを取除いて、ガスケットの傷みを調べます。

●エアクリーナエレメントは内側からエアを吹き付けホコリを取除いてください。
（エアの圧力は０．５MPa(５ｋｇｆ／ｃｍ²)以下にしてください。）

●エアクリーナエレメントには、油などを付着させないようにしてください。

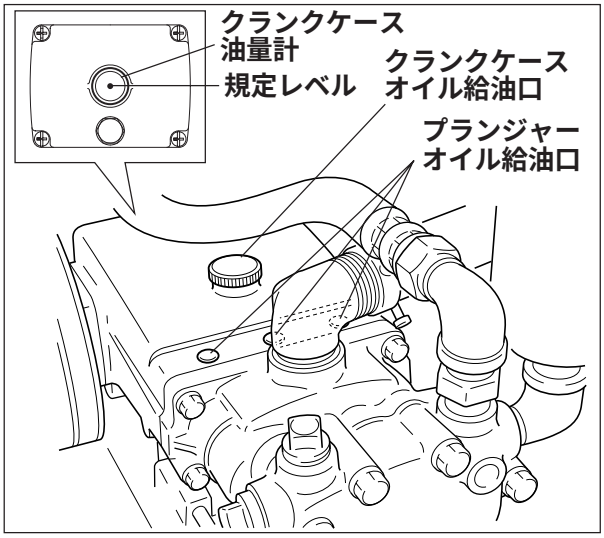
燃料系統

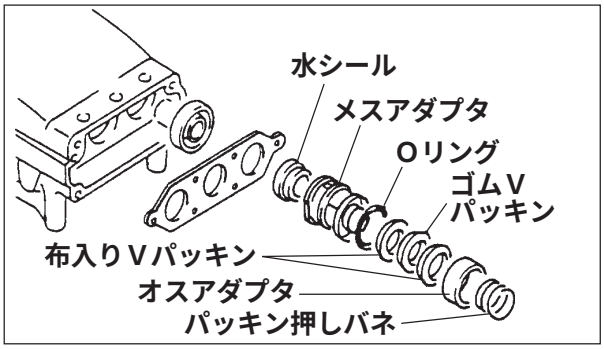
●燃料こし器エレメント

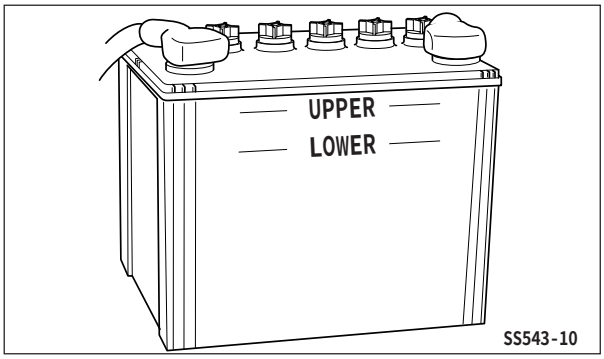
燃料こし器エレメントは規定時期、または燃料こし器清掃時にエレメントの汚れがひどいときに交換してください。燃料にゴミや水が混入するとエンジン不調の原因になります。

●空気抜き

燃料がカラになってエンジンが停止したときあるいは燃料こし器を清掃して内部がカラになったときは、空気抜きネジをゆるめスタータスイッチを「始動」にしてエンジンを空転させます。空気が抜けると空気抜きネジから燃料が勢いよく多量に流れ出します。空気抜きが終了したら空気抜きネジを充分に締付けます。
空気抜きは①②③の順序で行ないます。







⚠ 警告

- 充電を行なうときは、換気を行ないタバコなどの火気を近づけないでください。
- 車両にバッテリを載せたまま充電するときは、エンジンを停止してください。前照灯など電源を必要とするスイッチを切り、マイナス側のターミナルを外してください。
- 充電クリップの接続、取外しの前に充電器のスイッチを切ってください。
- 充電中にバッテリテスタを使用しないでください。
- バッテリ液に触れるとやけどをしたり、また、目に入ると失明する恐れがあります。
  バッテリ液を扱うときは手袋、保護めがねをしてください。
  万が一触れたり、目に入った場合はすぐに水で洗い流し医者に相談してください。

ポンプの点検

- プランジャ部分へオイルを給油してください。
  給油は、付属のオイラで、各プランジャ上部にあるゴム栓の切れ目から行ないます。（１０滴程度）

クランクケースオイルの点検

- 油面がクランクケース油量計の規定レベルにあることを確認します。不足している場合には、クランクケースオイル給油口よりオイルを補充します。
  使用オイル：ＳＡＥ＃３０エンジンオイル

水シールの交換

- 長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときは水シールが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、水シールを交換してください。

重要

水シールは高圧形のため、布入りパッキン２枚とゴム水シールの３枚が入っています。交換のときに順序を間違えないようにしてください。

ポンプベルトの点検

- ベルトの張り具合、キズなどを確認します。

バッテリの点検

バッテリはボンネットの中の左前にあります。

- バッテリの液量
  バッテリ液の規定量は、注入口内の液面指示までです。少ないときは蒸留水を補充します。
- バッテリ液の比重
  バッテリ液の比重は温度２０℃で１.２８が完全充電状態です。
- ターミナルとケーブルの結線
  バッテリケーブルがターミナルに完全に接続しているか、ゆるみがないか点検し充分締付けます。
- バッテリの清掃
  バッテリの上面と側面またターミナルが汚れている場合は、水またはぬるま湯で清掃します。
  ターミナルは防錆のため、ワセリンかグリースを薄く塗っておきます。
- 急速充電器で大電流を流すとバッテリの極板を傷めますので低電流で充電してください。
- 充電器で充電するときはＡＣジェネレータを使用していますので必ずバッテリのターミナルを外してください。
- バッテリ端子を取付けるときは、⊕側を先に取り付け、取外すときは⊖側から取り外してください。
- バッテリの端子ゴムブーツは、必ず取付けておいてください。

重要

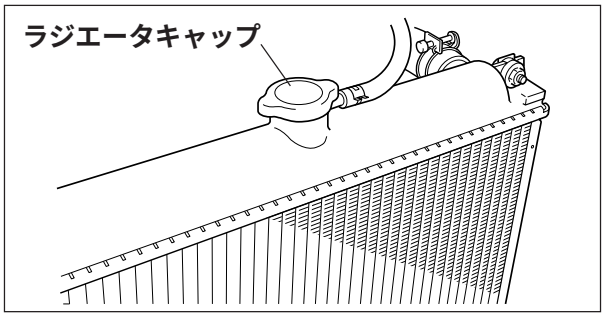
使用済のバッテリは専門の業者に回収を依頼してください。

ヒューズの点検

● 各種のランプが点灯しないときや、電気系統の装置が動かないときはヒューズが切れている場合があります。ヒューズボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておくと便利です。

前照灯の調整

● 前照灯の調整は、薬液タンクをカラにし、前後のタイヤの空気圧を点検してから行ないます。（標準空気圧：２５ページ参照）調整するときは、機体を平らなとこで垂直な壁に正対させて行ないます。光の中心は進行方向に真っ直ぐ向け、上下は水平よりやや下向きとします。



危険

エンジン停止直後に、ラジエータキャップや冷却水ドレン栓を外すと、蒸気や熱湯が吹き出し大変危険です。ラジエータが冷えてから外してください。

冷却系統

● ラジエータの手入れ
冷却系統についている錆、水垢、泥などの掃除は年に一度行ないます。清浄液には中性洗剤を使用し、使用後は水で完全に洗い落とします。アルカリ性の洗剤は、冷却系統を腐食しますから使用しないでください。

● ラジエータへの給水は、ラジエータ給水口よりきれいな水をあふれるまで補給してください。つぎに、ラジエータキャップを確実に閉じたあとリザーブタンクの“ＭＡＸ”位置まで水を補給します。

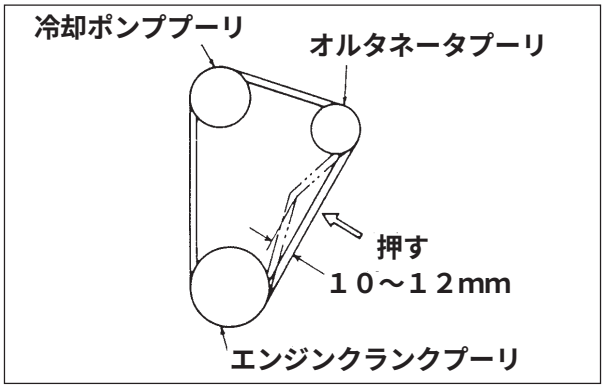
● 冷却水の交換
冷却水は、まずラジエータのドレン栓を外し、次にラジエータキャップをゆるめて、抜いてください。



リザーブタンク

重要

- ロングライフクーラント、または不凍液使用の際は、不凍液の説明書に従がってあらかじめ所定の混合液を作り、必ずよくかくはんしてから、ラジエータに給水してください。
- 交換後の不凍液の処理は、専門の業者に回収を依頼してください。



Ｖベルトの張りの調整

Ｖベルトがゆるむとエンジンの冷却力が不充分になったり、オルタネータの発電量が不足したりします。また張りが強すぎるとベルトが切れたり、シャフトに無理がかかり、オルタネータと冷却ポンププーリの寿命が短くなります。Ｖベルト張りは、エンジンクランクプーリとオルタネータプーリの中間部を指で押し、たわみが１０～１２mmになるように調整します。

オルタネータのアジャスタボルトをゆるめオルタネータの位置を移動することにより張りを調整します。調整後はアジャスタボルトを確実に締付けオルタネータを固定します。

日常点検および定期点検

ご使用者の皆さまが、本機の性能を充分に発揮し、安全な作業をしていただけるように、日常の点検を次のようにまとめましたのでご活用ください。なお点検作業の際は一部作業を除き、必ずエンジンを停止して行なってください。

⚠ 警告

ブレーキ、クラッチ、ステアリングに異常がある場合、直ちに運転を中止して販売店あるいは地区共立エコー株式会社に整備を依頼してください。

●日常点検作業表

	点検個所	点検作業			摘要
		運転前	運転中	運転後	
燃料系統	燃料タンクの油面	○		○	キャップ下端まで満す
	燃科タンクのキャップ	○			充分締付ける
	燃料タンクおよび沈殿槽	○			水、沈殿物などがあれば除去する
	燃料漏れ	○			有無の確認（配管、継手を含めて）
潤滑系統	オイルの量	○			規定量があるか調べる
	オイルの汚れ	○			汚れの度合を調べる
	オイルの漏れ	○			結合部など漏れを生じやすい所の確認
	グリースニップル	○		○	必要個所にグリースを補給する
冷却系統	ラジエータの水面	○			規定量があるか調べ補充する
	ラジエータのキャップ	○			充分締付ける
	ラジエータ、空気取入れ口	○			付着したゴミを除去する
	水漏れ	○			有無の確認
電気系統	バッテリのターミナル	○			ゆるみ、汚損の点検
	バッテリ液の量	○		○	規定より少ない場合は蒸留水を補給する
	前照灯	○			点検具合が良好で、かつ汚れおよび損傷がないこと、連動のものはその状態にて点検
	ホーン、フラッシャランプ	○			作動を確認する
エンジン系統	エンジン		○		排気色の状態を点検
	計器類	○	○		各計器、表示灯などが確実に作動するか確かめる
動力伝達系統	変速レバー		○		確実に操作できるか確かめる
	クラッチペダル		○		確実に作動するか、遊びが規定のとおりであるか、確かめる
	ベルトの張り	○			規定のたわみに調整する
走行系統	ブレーキペダル	○	○		よく効くか、左右の効きが同じか確かめる
	駐車ブレーキの効き具合	○		○	タイヤのロック､ロック解除が確実にできるか確かめる
	ステアリングホイール	○			ゆるみ、ガタがないか遊びが規定のとおりあるか確かめる
	タイヤの空気圧	○			前､後タイヤとも規定の圧力であるか確かめる
	タイヤの亀裂、損傷	○			亀裂、損傷などがないかを確かめる
	リム、ハブ	○			ボルト、ナットの脱落、ゆるみがないかを確かめる

	点検個所	点検作業			摘要
		運転前	運転中	運転後	
散布系統	各部の水漏れ	○		○	ニップル、パッキン、バンドの締付部などからの水漏れがないかを確認
	ドレン栓	○		○	漏れの有無を確認
	薬液ポンプ	○		○	オイルがレベルまで入っているか確認
	送風機吸込み口	○		○	葉などの異物の詰まり清掃
	薬液ポンプこし網	○			清掃確認
	噴口の締付	○			詰まり清掃、および締付確認
その他	前日の運行において異常を認められた個所	○	○		異常を認めた個所が完全に修理されているかを確認
	携帯工具	○		○	規定員数があるか、破損がないかを確かめる
	洗車			○	洗車した後、要所に給油する

●定期点検作業表

	点検個所	点検整備事項	点検時期			
			50時間毎	100時間毎	200時間毎	年間整備
燃料系統	フィルタ	エレメントの洗浄または交換				○
		沈殿物の除去および水分排出		○		
	タンク	洗浄			○	○
	パイプおよび結合部	亀裂、ヒビ、ゆるみ個所の修理、締付け	○			
潤滑系統	クランクケース	エンジンオイル交換	注 ○	○		
	オイルフィルタ	フィルタの交換	注 ○	○		
	ギヤケース関係	オイル交換	注 ○		○	
冷却系統	ラジエータ	冷却水交換		○		
		湯垢取り				○
		サーモスタット点検			○	
		ラジエータゴミの清掃		○		
吸気系統	エアクリーナ	吸込部清掃	○			
		エレメント点検、清掃	○			
電気系統	バッテリ	ターミナル清掃	○			
		電解液の比重計測		○		
	ＡＣジェネレータ、セルモータ	分解、点検、清掃				○
	レギュレータ	点検整備			○	
	電気配線	各ターミナルのゆるみ点検	○			○
		被覆のむけ、かみ込みの点検				○
エンジン系統	バルブ	タペットまたは揺れ腕のすきま点検			○	
	シリンダヘッド	増し締め		○		
	ブリーザキャップ	点検、清掃	○			
	燃料噴射弁	点検、清掃		○		
	エンジン全般につき	点検、清掃			○	

注:初回交換

	点検個所	点検整備事項	点検時期			
			50時間毎	100時間毎	200時間毎	年間整備
動力伝達系統	クラッチ	点検、調整		○		
	変速装置、差動装置	点検、調整		○		
走行系統	ブレーキ	分解点検、調整		○		
	かじ取り装置	トーインの点検			○	
		ピットマンアーム、ナックルアーム、キングピン、ドラックリンク、タイロッドなどの点検調整			○	
	前後車軸	ナットのゆるみ点検			○	
		ホイールナットの点検			○	

定期の点検・調整について

定期点検や整備を農閑期に行なうと、農繁期には機械の性能が充分発揮され、安全で快適な作業が行なえます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、１シーズンごとに整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

特に燃料パイプや、油圧ホースなどのゴムホース類や電気配線は２年ごとに交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行なえるようにしてください。

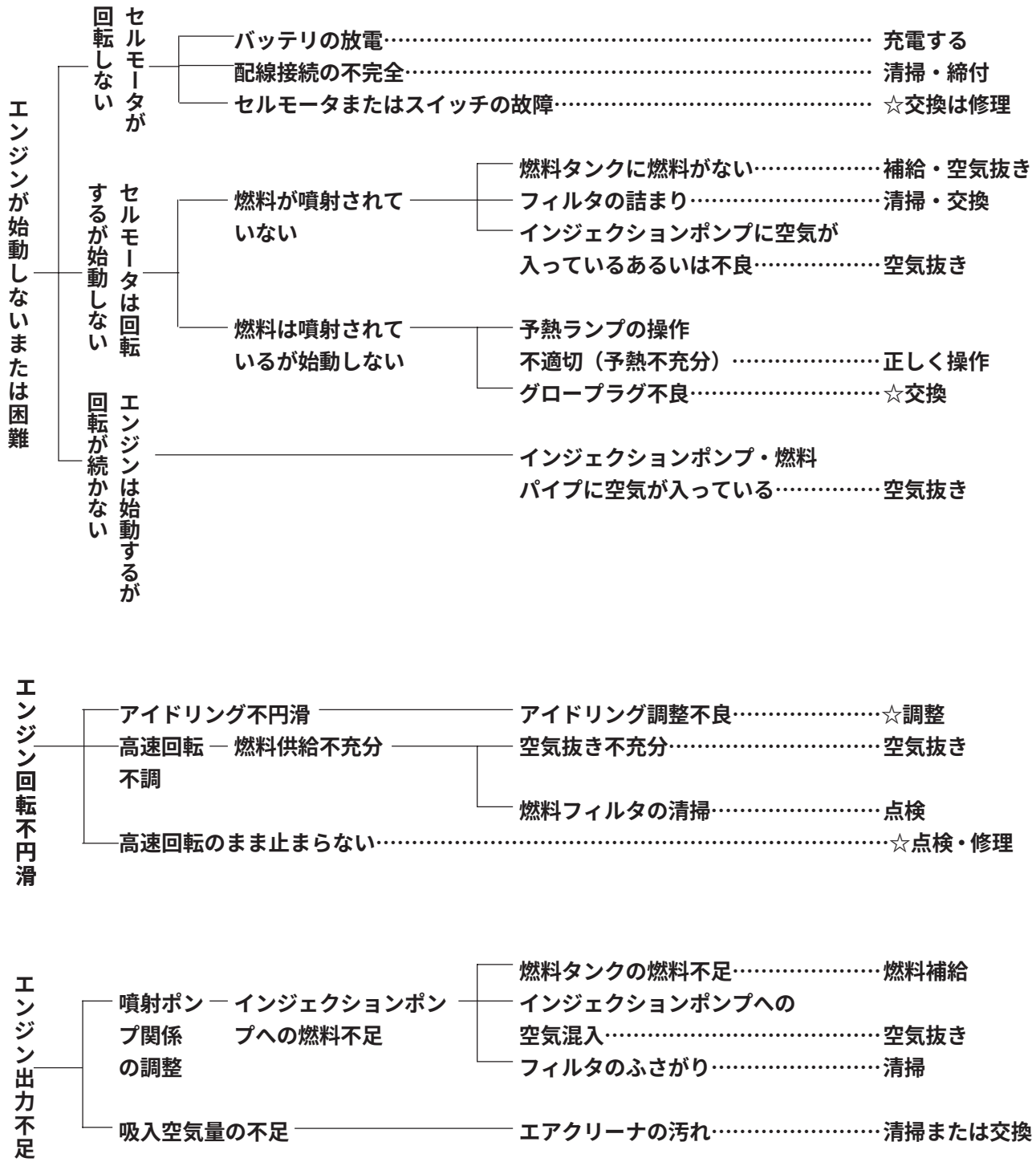
故障対策

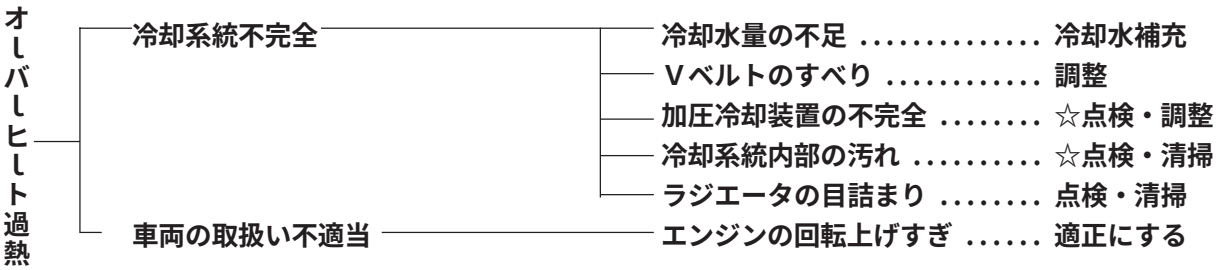
（☆印は販売店あるいは地区共立エコーに整備を依頼してください）
スピードスプレーヤを、防除時期に満足に使用していただくためには、いつも点検・整備を忠実にしていただくことです。万一運転不調を生じた場合は、次の故障探求表によって順次しらべるようにしてください。ご不明の点または正常に作動しない場合は、販売店あるいは地区共立エコー株式会社にご相談ください。

⚠ 警告

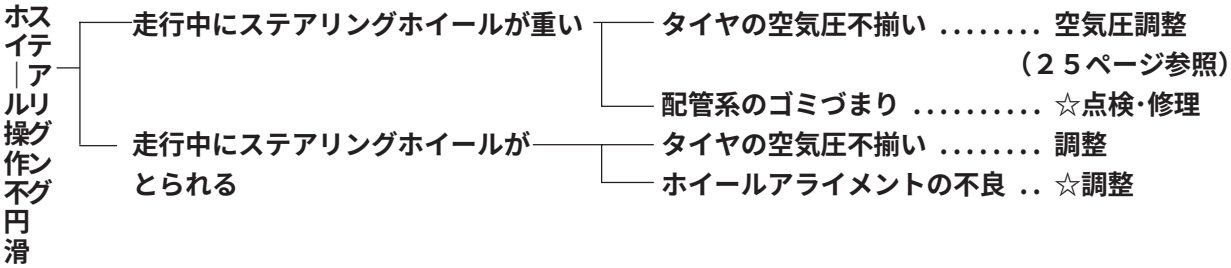
ブレーキ、クラッチ、ステアリングに異常がある場合、直ちに運転を中止して販売店あるいは地区共立エコー株式会社に整備を依頼してください。

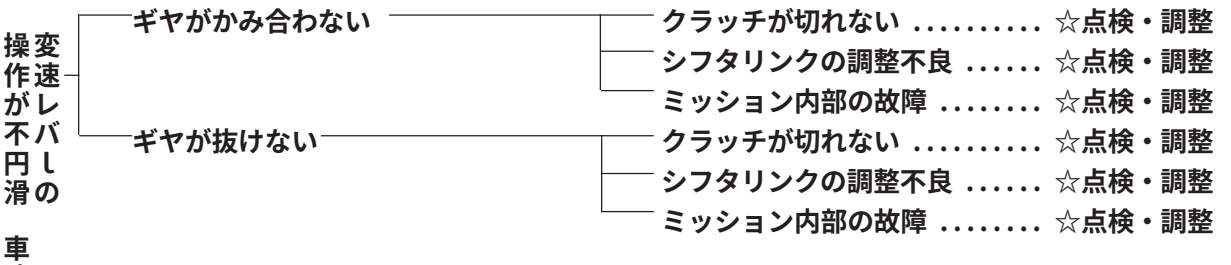
故障探求表

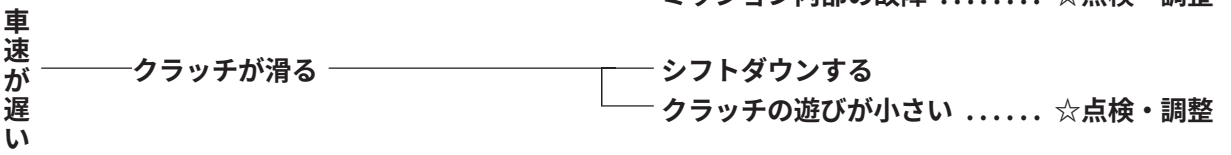


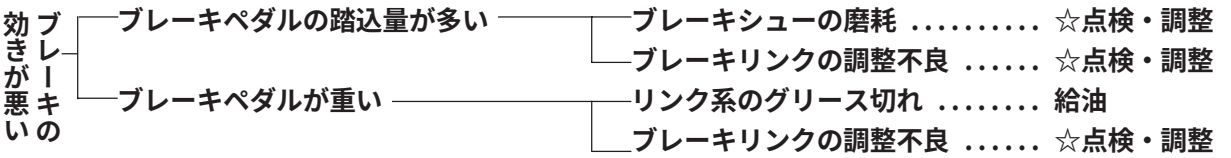


●車両操作

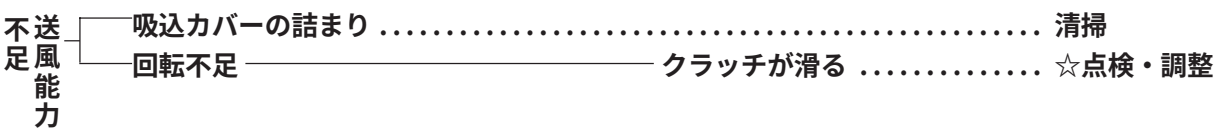




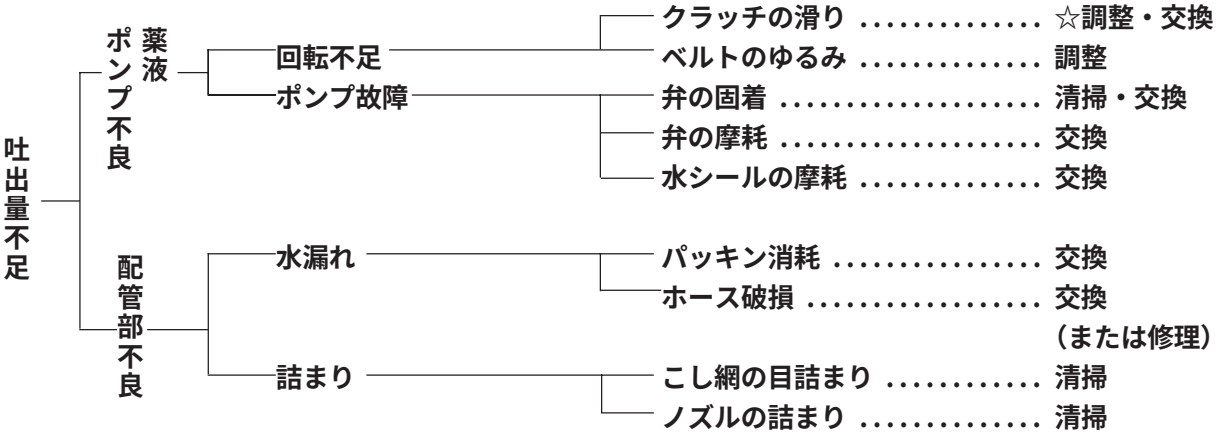




●送風系統



●薬液系統



長期格納整備

◎格納整備（年間整備）

本年の散布作業が終了して、来年使用されるまでの遊休期間中に本機の分解、清掃、修理整備を行なっておき、来年の散布作業が支障なくできるようにしておきましょう。

格納整備は機材購入店または最寄の地区共立エコー株式会社の営業所にご相談ください。

○格納整備の実施については使用状況により相違がありますが、通常次の項目に大別されます。

●エンジン
本機からエンジンをおろしてオーバーホールし、不良箇所は修理し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。

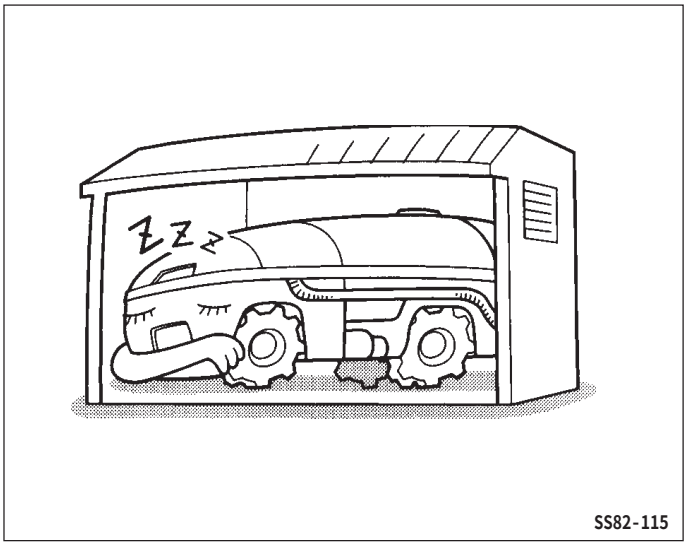
●薬液ポンプ
機体からポンプをおろしてオーバーホールし、不良箇所は整備し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。

●薬液配管
薬液配管の外傷、へたり、漏れなどがないか調べます。

●送風機
軸受部、継ぎ手などが滑らかで静かに回転しているかどうかを調べます。
筐体部に腐触が多い場合、再塗装します。

●走行部
駆動部分、ブレーキ、クラッチなどの摩耗、ゆるみなどを調べます。車体に腐触が多い場合、再塗装します。

●バッテリ
バッテリはたえず自己放電し、約３ヶ月で使用不可能となりますので、長期間本機を使用しない場合は、１ヶ月に１度は必ずバッテリ液の量を確認し、補充電してください。
１ヶ月を越えて格納する場合は、㊀ターミナルを外してください。



○整備後の長期格納保管には、次の処置を取りましょう。

●燃料タンク内の燃料を完全に排出します。

●冷却系統の水を完全に排出します。

●薬液タンクのフタ、薬液タンクドレン栓は開いておきます。

●キーは抜いて大切に保管してください。

●金属表面の出ている所は油布で軽く表面を拭いておきましょう。

●タイヤ空気圧を調べ空気が足りないときは入れましょう。

●保管は風通しのよい、湿気の少ない場所へ防塵カバーを掛けて格納します。

仕　様

区　分	項　目		単　位	形　式	
				ＳＳＶ６５３Ｆ	ＳＳＶ６５３Ｆ／１
機体寸法	全長		mm	3,170	←
	全幅		mm	1,330	←
	全高		mm	1,200	←
機体質量	本体		kg	990	965
	全備		kg	1,595	1,565
エンジン	形式名		―	三菱 S4L-31KS	←
	種類		―	水冷４サイクル４気筒 ディーゼルエンジン	←
	総排気量		L	1.500	←
	最大出力		kW(PS)／r/min	25.7(35.0)/3,600	←
	定格出力		kW(PS)／r/min	21.3(29.0)/2,700	←
	使用燃料		―	ディーゼル軽油	←
	燃料タンク容量		L	24	←
	始動方式		―	セルモータ式	←
走行部	形式		―	４輪４駆	←
	タイヤ	前タイヤ	―	23-9.00-12 4PR	←
		後タイヤ	―	23-9.00-12 4PR	
	変速段数		段	前進８段・後進２段	←
	走行速度	前進１速	km/h	副変速低　1.1 副変速高　3.9	←
		前進２速	km/h	副変速低　1.8 副変速高　6.4	←
		前進３速	km/h	副変速低　2.9 副変速高　10.5	←
		前進４速	km/h	副変速低　4.2 副変速高　14.9	←
		後　進	km/h	副変速低　1.1 副変速高　3.9	←
薬液タンク容量			L	600	←
かくはん方式			―	機械式	←
薬液ポンプ	形式		―	往復動形（プランジャ式） HP-912S	←
	常用回転速度		r/min	960	←
	常用吐出圧力		MPa(kgf/cm²)	標準 1.5(15)	←
	吐出量		L/min	81	←
補給ポンプ			― ―	回転形（ロータリー） FB40-B6AC-K2K1	
送　風　機	形式		―	軸流形	←
	常用回転速度		r/min	高速：2,340/ 低速：1,500	←
	使用時風量		m³/min	高速：550/ 低速：340	←
ノズル	種類		―	ディスクノズル形	←
	個数		個	16	←
	ノズル穴径		mm	1.0～2.4	←
	噴霧量		L/min	72	←
	圧力		MPa(kgf/cm²)	標準 1.5(15)	←

※より良い製品を造るために予告なく仕様を変更する場合もあります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町 1-7-2　〒 198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　〒 004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東 5-1-50　〒 984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町 1-39　〒 452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田 566-159　〒 701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原 5-3-7　〒 816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

898 512-1030 0
X750 007-050 1